

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	発達心理学概論 (Introductin to Developmental Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 誕生から死に至るまでの人間発達について考えるのが（生涯）発達心理学である。本講座では、各ステージの特徴ばかりでなく、連続性と独自性も踏まえて人生の全体像を見据えて発達を考えていく。									
授業目標： 1. 発達心理学の理論や方法論を学び、実践への活用を考える。 2. 乳児期～老年期までの発達の特徴を知り、発達支援や人間発達について考える。 3. 発達障害について理解し、その支援方法を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	発達心理学の意義一本講義の概要の説明					事前：シラバスの確認 事後：何を学ぶかのまとめ		講義 70分 質疑 20分	
2	発達心理学の基本理解					事前：資料を読む 事後：意義と概要を復習		講義 70分 振り返り 20分	
3	発達の規定要因－遺伝と環境					事前：資料を読む 事後：規定因のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
4	発達の段階と発達課題					事前：資料を読む 事後：発達課題のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
5	胎児期～児童期の発達と障害					事前：資料を読む 事後：障害の理解とまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
6	アタッチメント(愛着)の形成					事前：資料を読む 事後：愛着の理解とまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
7	親子関係－子どもがいる家族のライフサイクル					事前：資料を読む 事後：親子関係のまとめ		講義 50分 討議 40分	
8	遊びの発達－遊びから見る認知発達					事前：資料を読む 事後：遊びの発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
9	ことばとコミュニケーションの発達					事前：資料を読む 事後：言語発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
10	社会性の発達－心の理論、道徳性の発達					事前：資料を読む 事後：社会性発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
11	思春期・青年期の発達－アイデンティティの形成					事前：資料を読む 事後：identity 形成のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
12	自己意識の成熟とアイデンティティの形成－進路選択とモラトリアム					事前：資料を読む 事後：青年期発達のまとめ		講義 50分 討議 40分	
13	成人期の発達－成人期への移行とライフコース選択					事前：資料を読む 事後：移行期の理解とまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
14	老年期の発達－統合とサクセスフルエイジング					事前：資料を読む 事後：老年期心理のまとめ		講義 50分 討議 40分	
15	発達アセスメントと発達障害の理解と支援－発達検査・知能検査 他－					事前：資料を読む 事後：アセスメントのまとめ		講義 30分 演習 60分	
教本： 参考文献： 使用しない。適宜、参考資料を配布。 無藤隆/中坪史典/西山修編著 発達心理学 ミネルヴァ書房 高橋道子/藤崎真知代/仲真紀子/野田幸江著 新曜社 柏木恵子著 子どもも育つおとなも育つ発達の心理学 萌文書林									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間を設ける。単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともある。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてもらいたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。水曜日の昼休み。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	発 達 と 学 習 の 心 理 (Psychology of Development and Learning)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 授 業 で は、乳 幼 児 期 の 発 達、動 機 付 け 理 論、学 習 理 論、行 動 分 析 学 な ど の 心 理 学 の 基 礎 か ら、子 ども を 理 解 す る 切 り 口 を 提 供 す る。									
授 業 目 標 : 本 講 義 の 目 標 は、子 ども の 発 達 の プ ロ セ ス や 学 習 の メ カ ニ ズ ム を 理 解 し、子 ども の 発 達 段 階 や 個 々 の 特 性 に あ っ た 支 援 方 法 を 考 え る こ と が で き る よ う に な る こ と で あ る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				授 業 形 態
1	オリエンテーション				事前：シラバスを読んでおく 事後：授業の見通しをつける				講義・演習
2	発達するとはどういうことなのか：生涯発達の中に乳幼児期を位置付けて考える				事前：自分の幼少期について親などに聞いてみる 事後：「発達」について自分の考えをまとめる				講義
3	生命の芽生えから誕生まで				事前：出産を経験した人に、妊娠から出産までの話を聞いてみる 事後：胎児の発達について学んだことをまとめる				講義
4	乳幼児の発達：認知的発達				事前：乳幼児を見かけたら、その様子や親子間の関わりを観察してみる 事後：乳幼児の発達について学んだことをまとめる				講義
5	乳幼児の発達：関係性の発達				事前：乳幼児を見かけたら、その様子や親子間の関わりを観察してみる 事後：乳幼児の発達について学んだことをまとめる				講義
6	愛着：アタッチメントとボンディング、愛着障害				事前：「愛着」について調べる 事後：アタッチメントの個人差について、その要因と関連付けてまとめる				講義
7	動機付け理論：内発的動機付け、外発的動機付け、学習性無力感				事前：何が自分のやる気につながっているのか考える 事後：様々な場面での「動機付け」について考える				講義
8	発達障害：自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害				事前：発達障害に関して調べてみる 事後：発達障害児の支援について考えてみる				講義
9	学習のメカニズム：古典的条件付け、オペラント条件付け				事前：パブロフの犬の実験について調べておく 事後：様々な場面での行動形成について考えてみる				講義
10	行動分析学による子どもの行動理解				事前：子どもの適切・不適切な行動にはどのようなものがあるか考える 事後：子どもの行動形成のメカニズムについて考える				講義・演習
11	行動分析学による子どもの行動形成				事前：形成・消去したい子どもの行動を考える 事後：上記子どもの行動をどのように形成・消去するのか考える				講義・演習
12	こんなときどうする？：集団場面での関わり				事前：幼稚園・保育園で気になる子どもの行動とは何か考える 事後：より適切な行動を形成するにはどうすればいいのか考える				講義・演習
13	こんなときどうする？：育児支援				事前：乳幼児育児期の母親は子どものどのような行動に困っているのか考える 事後：上記問題にどのようにアドバイスすればいいのか考える				講義・演習
14	グループでの事例検討・発表				事前：これまでの授業内容に基づき、検討したい事例を考えておく 事後：発表資料の作成				講義・演習
15	発表会				事前：発表資料の作成 事後：子どもの発達と学習について自分の考えをまとめる				演習
教 本 : なし。授業中に資料を配布する。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、テ ス ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 に は、グ ル ー プ ワ ー ク、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。毎 回 の 講 義 終 了 時 に は、コ メ ン ト ペ ー パ ー に 講 義 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	比較文化論Ⅰ（Comparative CultureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授業目標： 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇比較文化論Ⅰの全体像を概観する。					事前：教本 pp.1～3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3～9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史～中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236～242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化～文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11～16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16～19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19～24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コミュニケーション ② 想像／創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24～31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英語帝国主義～日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108～117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117～134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135～144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非言語 ② 沈黙の意味～日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144～152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時間・空間－記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。					事前：教本 pp.152～157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	まとめ ・比較文化論Ⅰの内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション ー多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業中に課す小レポート（40％）及び期末レポート（60％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	比較文化論Ⅱ（Comparative Culture Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	比較文化論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授業目標： 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇比較文化論Ⅱの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。					事前：教本 pp.83～95精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。					事前：教本 pp.95～108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。					事前：教本 pp.37～50精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。					事前：教本 pp.50～59精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例検討する。					事前：教本 pp.61～90精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。					事前：教本 pp.90～108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	文化のポリティクス ① 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。					事前：教本 pp.159～169精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。					事前：教本 pp.181～188精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。					事前：教本 pp.189～192精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。					事前：教本 pp.192～205精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	研究発表 1 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
13	研究発表 2 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
14	研究発表 3 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
15	まとめ ・比較文化論Ⅱの総括とともに議論を深める。					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション－多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業中の小レポート（40％）及び期末試験（60％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジネスとデータ (Data Analysis for Business)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： ビッグデータや人工知能（AI）技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスや AI に関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンスや AI に関する知識、技術を体系的に学ぶために必要となる最も基本的なデータ分析の知識の習得を目指す。具体的には、データサイエンスや AI によって社会やビジネスで起きている変化について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、社会やビジネスで活用されているデータの種類やその意味を理解し、データ分析に取り組むための基礎知識を学ぶ。									
授業目標： データサイエンスや A I による社会やビジネスの変化を理解するとともに、活用領域の広がりを理解する。データの種類やその意味を理解するとともに、データの発現場（社会やビジネス）を理解した上で、データの基本的な特徴を説明できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、関連授業の紹介 本授業とデータサイエンスや AI 関連科目について説明					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	社会やビジネスで起きている変化Ⅰ ビッグデータ、AI による変化とビジネスに与える影響					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
3	社会やビジネスで起きている変化Ⅱ ICT、IoT、DX による変化とビジネスに与える影響					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
4	社会やビジネスで起きている変化Ⅲ Society 5.0による活用領域の広がりがビジネスに与える影響					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
5	データの種類と意味 データの分類と定義について理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
6	情報メディアの種類と意味 情報メディアの分類とその特徴について理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
7	データの比較 データの比較により、データの意味を理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
8	データの比率 比率の算出により、データの特徴を理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
9	データの可視化Ⅰ 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
10	データの可視化Ⅱ 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
11	ビジネスデータの入手と理解Ⅰ 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
12	ビジネスデータの入手と理解Ⅱ 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
13	ビジネスデータの入手と理解Ⅲ 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
14	ビジネスデータの入手と理解Ⅳ 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
15	ビジネスデータの入手と理解Ⅴ 業界のビジネスデータを入手し分析結果をプレゼンする					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義 10 分 プレゼン 80 分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジネストラベル論 (Business Travel)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ツーリズムには狭義の観光のみならず、会議への出席やビジネスなどの目的で旅行すること含まれる。ビジネストラベル論では、MICE と呼ばれる企業の会議 (meetings) やインセンティブトラベル (企業報奨旅行、incentive travel)、国際会議 (conventions)、イベント・展示会・見本市 (events/exhibitions) に関わるツーリズムを学ぶ。									
授業目標： ビジネストラベルの現状を理解し、その重要性を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	MICE とは (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	MICE とは (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	MICE の開催効果					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	MICE 関連産業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	MICE と都市・地域					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	MICE 誘致機関 (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	MICE 誘致機関 (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	MICE と観光					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	日本の MICE の沿革					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	欧米の MICE 産業の歴史と現況					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	MICE の動向と市場展望					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	MICE 産業確立に向けた施策					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： MICE は開催地に高い経済効果をもたらし、地域の知名度向上・国際化に資するため日本や世界の国々にとって重要な産業となってきた。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ビジネス法Ⅰ (Business Law Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ 私法学Ⅱ (同時履修も含め、好ましい。)							
	そ の 他								
授業概要： 商法は、民法の特別法といわれます。講義の中心となるのは主に商法総則・会社法総則となりますが、ビジネス法を強く意識した展開とします。									
授業目標： 商人、企業形態、商人の施設、そして、民法ないし民事法を強く意識した講義とし、法的ものの見方、ビジネス実務との関連を身につけるようにすることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。私法の特徴 (概要) を示し、私法学Ⅱを学んでいくうえで心構え等を説明する。				事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
2	商法を中心とするところ、商法・会社法とは何か、商法の意義および会社法の意義について考察する。加えて、商法の法源を概説する。				事前：ビジネス法とは何かについて考え、加えて、商法の意義および会社法の意義等について確認する。 事後：商法の意義および会社法の意義等について確認し、ビジネス法とは何かを考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
3	民法と商法・会社法の関係を概観し、企業組織法としての商法、企業取引法としての商法について概説する。				事前：民法と商法・会社法の関係を確認し、企業関係法ないしビジネス法について考察する。 事後：民法と商法・会社法の関係を確認し、加えて、企業関係法ないしビジネス法について考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
4	商人および商行為について概観し、企業形態および商人資格の得喪等について概説する。				事前：商人、商行為、そして、企業形態および商人資格の得喪について確認する。 事後：商人、商行為、そして、企業形態および商人資格の得喪について確認をし、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
5	商号について、考察する。商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について概説する。				事前：商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について確認し、商号について、考察する。 事後：商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について確認し、商号について考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
6	名板貸および名板貸責任について概観する。名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について概説する。				事前：名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について確認する。 事後：名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について確認し、ノートにまとめる。				
7	営業および営業譲渡について概観する。営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果について概説する。				事前：営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果について確認する。 事後：営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
8	商業使用人について概観する。商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について概説する。				事前：商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について確認する。 事後：商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
9	代理商について概観する。代理商の意義、代理商に関する特則等について概説する。				事前：代理商の意義、代理商に関する特則等について確認する。 事後：代理商の意義、代理商に関する特則等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	

10	商業帳簿について概観する。商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について概説する。	事前：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の保存および提出について確認する。 事後：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	商業登記制度について概観する。商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について概説する。	事前：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認する。 事後：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	民法上の組合と営利企業形態について概観する。無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について概説する。	事前：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認する。 事後：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	企業の代表者（役員等）と企業との法的地位について概観する。企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務および責任等について概説する。	事前：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認する。 事後：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認し、ノートにまとめる。	
14	債権・債務等の移転と組織再編について概観する。特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について概説する。	事前：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認する。 事後：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	企業倒産と破産手続、債権者病度の原則について概観する。企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について概説する。	事前：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認する。 事後：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
教本： 「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。 参考文献： 初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビ ジ ネ ス 法 Ⅱ (Business Law Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 Ⅰ 私 法 学 Ⅱ ビ ジ ネ ス 法 Ⅰ (同 時 履 修 も 含 め、好 ま し い。)							
	そ の 他								
授 業 概 要： 商 法 は、民 法 の 特 別 法 と い わ れ ま す。講 義 の 中 心 と な る の は 主 に 商 取 引 法 と な り ま す が、ビ ジ ネ ス 法 を 強 く 意 識 し た 展 開 と し ま す。									
授 業 目 標： 商 取 引 法 を 中 心 と し ま す が、民 法 な い し 民 事 法 を 強 く 意 識 し た 講 義 と し、法 的 も の の 見 方、ビ ジ ネ ス 実 務 と の 関 連 を 身 に つ け る よ う に す る こ と を 目 標 と し ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。ビジネスの特色（概要）を示し、ビジネス法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。				事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
2	民法の四原則、物権と債権の峻別等について概観する。権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について概説する。				事前：権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認する。 事後：権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
3	意思表示と契約の成立・効果等について概観する。意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について概説する。				事前：意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認する。 事後：意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
4	代理と代表について概観する。民事代理と商事代理、商事代理の特色等について概説する。				事前：民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認する。 事後：民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
5	売買契約について概観する。売買契約の意義、売買契約と特別法（商事売買契約）、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について概説する。				事前：売買契約の意義、売買契約と特別法（商事売買契約）、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認する。 事後：売買契約の意義、売買契約と特別法（商事売買契約）、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
6	交互計算について概観する。交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について概説する。				事前：交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認する。 事後：交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
7	匿名組合について概観する。匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について概説する。				事前：匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認する。 事後：匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
8	仲立営業について概観する。仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について概説する。				事前：仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認する。 事後：仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	
9	取次営業（問屋・運送取次）について概観する。取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について概説する。				事前：取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認する。 事後：取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。	

10	運送営業について概観する。物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について概説する。	事前：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認する。 事後：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	倉庫営業について概観する。倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について概説する。	事前：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認する。 事後：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	運送保険について概観する。保険とは何か、保険契約と射替契約、運送保険の特色等について概説する。	事前：保険契約と射替契約、運送保険の特色等について確認する。 事後：保険契約と射替契約、運送保険の特色等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	約款契約、企業間取引・対消費者取引等について概観する。約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について概説する。	事前：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認する。 事後：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
14	破産と担保物権について概観する。担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について概説する。	事前：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認する。 事後：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	破産と非典型担保について概観する。譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について概説する。	事前：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認する。 事後：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
教本：「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習をお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジュアル情報論 (Visual Digitalization)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 情報を視覚的に伝達するためには、情報を受け取る立場に立ち、必要な内容を選択し、整理や分類した上で、わかりやすく再構築する必要がある。そのために本授業では、まず、効果的な情報整理の重要性を確認する。そのうえで、パワーポイントによるビジュアル・レイアウトの演習を通して、ビジュアル・コミュニケーションの基本的なルールを学習する。									
授業目標： PowerPointの基本的な機能と操作を説明できる／視覚伝達表現を構成する諸要素の効果を説明できる／情報の性質に応じて、適切なダイアグラム、チャートで表現できる／未整理の情報を編集し、目的に応じて論理的に構造化し、視覚情報として可視化することができる									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：配布資料を確認する		講義	
2	総務省はなぜ「統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法」なるルールを作成したか					事前：資料を下読みする 事後：講義内容を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	ネ申エクセル問題（神 Excel 問題）について考察する					事前：Excel の操作をおさらいする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
4	PowerPoint 基礎を学習する (1) ブレースホルダー、smart 図形					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
5	PowerPoint 基礎を学習する (2) フォント、整列					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
6	PowerPoint 基礎を学習する (3) レイアウト、視覚効果、余白、テーマ					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
7	PowerPoint で テキスト配置と「囲み」の法則を学習する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
8	UI 設計ツールの Figma を体験する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
9	Figma を用いたスマホアプリの UI 設計を体験する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
10	路線図に見るゲシュタルト／良い連続／位相図化の法則					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
11	課題：総務省のパワボ書類の改善を試みる					事前：課題の資料を確認しておく 事後：課題を完成させ、提出する		講義 60 分 演習 30 分	
12	様々なデザイン指標：① Apple Human Interface Guidelines、② Material Design					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
13	グループワーク：プロトタイピングツールによる UI デザインを体験する (1) 情報の整理					事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
14	グループワーク：プロトタイピングツールによる UI デザインを体験する (2) 視覚効果					事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する		講義 60 分 演習 30 分	
15	総括					事前：授業で使用了資料をまとめておく 事後：課題のフィードバックを確認する		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業での確認課題（30％）、小テスト等（30％）、作品制作（40％）で評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	美術史（Art History）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 西洋美術史については、一般に聞きなれたキーワードを切り口として、古代から現代まで、作品が生まれた歴史的背景とその受容について、スライド等で鑑賞しながら適宜解説する。日本美術史と現代美術については、重要項目を取り扱う。									
授業目標： 美術作品が制作された文化的背景を説明できる。美術における歴史的な推移と代表的な作品を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／資料についての説明を行う					事前：シラバスを読む 事後：資料の復習をする		講義	
2	西洋美術史（1） ギリシャ・ローマ					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(1)について復習する		講義	
3	西洋美術史（2） 中世：ヨーロッパの美術の土台					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(2)について復習する		講義	
4	西洋美術史（3） イタリアルネサンスⅠ：15世紀フィレンツェの美術					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(3)について復習する		講義	
5	西洋美術史（4） イタリアルネサンスⅡ					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(4)について復習する		講義	
6	西洋美術史（5） 印象主義について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(5)について復習する		講義	
7	西洋美術史（6） 世紀末美術について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(6)について復習する		講義	
8	西洋美術史（7） 近代の建築、工芸、彫刻、美術					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(7)について復習する		講義	
9	現代美術（1） おもに絵画について扱う					事前：資料を下読みしておく 事後：これまでの講義内容を纏めておく		講義	
10	現代美術（2） 絵画以外を扱う					事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術(1)について復習する		講義	
11	日本美術史（1） 基本的な用語、各時代の位置づけと特徴を解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術について纏めておく		講義	
12	日本美術史（2） 国宝・重文の絵画について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(1)について復習する		講義	
13	日本美術史（3） 国宝・重文の仏像・彫刻について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(2)について復習する		講義	
14	日本美術史（4） 版画について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(3)について纏めておく		講義	
15	総括を行う					事前：講義で扱った資料を概観しておく 事後：総括を踏まえて講義内容をまとめる		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、レポート（40%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 小テスト提出方法、レポート提出方法など、少しでも不明な点があれば、早めに質問しておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	ファイナンス法 (Finance Law)						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	藤原 俊雄																		
履 修 条 件	前提科目	企業組織法Ⅰ、企業契約法Ⅱを既に履修した者であること。																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： 企業組織法の授業では、本学の方針どおり実施すると資金調達（ファイナンス）のところまではできないので、この授業においてその部分をカバーしようとするものである。																			
授業目標： 1. 企業のファイナンスに関する法制度の基本について説明することができる。 2. 企業ファイナンスの現実において生じている主要な法的問題とその解決策について説明することができる。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
◎			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	この授業におけるファイナンス法とは？ 学ぶにあたって					事前：なし 事後：講義計画の確認		講義60分、質疑応答30分											
2	株式会社の資金調達の諸方法					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義 60 分、討論 30 分											
3	募集株式の発行 発行手続等について					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義 60 分、討論 30 分											
4	募集株式の有利発行（その1）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
5	募集株式の有利発行（その2）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
6	募集株式の不正発行（その1）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
7	募集株式の不正発行（その2）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
8	不公正な払込金額で株式を引き受け者等の責任					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
9	出資履行を仮装した者の責任					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義 60 分、討論 30 分											
10	新株予約権について 新株予約権とは					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義 60 分、討論 30 分											
11	新株予約権の発行手続等					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義 60 分、討論 30 分											
12	敵対的企業買収対抗策としての新株予約権の発行					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
13	新株予約権の行使・払込み 新株予約権の不正発行					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60 分、討論 30 分											
14	社債とは 社債の発行条件 社債権者集会					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義 60 分、討論 30 分											
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた資金調達上の課題について検討する					事前：これまでのノート整理 事後：まとめのノートの作成		講義 60 分、討論 30 分											
教本： 教科書は用いないが、参考書として丸山秀平『やさしい会社法 [第14版]』（法学書院）などを用いてほしい。										参考文献： 授業中に適宜指示する。 ※学習用六法を携帯すること。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点としての小テスト（10%）、期末試験（90%）で評価する。																			
学生へのアドバイス： 期末テスト（授業中に実施することもあり得る）は、持ち込みなしなので、それを承知のうえ受講すること。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ファイナンシャル・プランニングⅠ（Financial PlanningⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ファイナンスは一般的に金融や財政、融資のことですが、フィナンシャル・プランとなると、主として私たち個人に関わる金融の管理・計画となります。わかりやすくいえば貯金や税金、保険、投資、資産形成、相続のことです。本講座は身の回りのおカネ全般について講義します。FP（フィナンシャルプランナー）技能検定を受験する学生にもあわせて講義します。									
授業目標： FP受験レベルの知識の習得									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス：フィナンシャル・プランニングの意味と範囲 (1) FPの説明 (2) 身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義(60分) 演習(30分)	
2	現代社会におけるパーソナル・ファイナンス： ライフ・プランとフィナンシャル・プラン					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
3	経済環境と家計： 私たちを取り巻く経済社会の変化と家計への影響					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
4	家計管理(1)：家計の資産と負債(短期) 収入と支出、貯蓄について					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
5	家計管理(2)：家計の金融資産(中・長期) 預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
6	保険の経済学(1)：保険の基本構造 保険の種類と特徴					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
7	保険の経済学(2)：生命保険 生命のリスク・マネジメント					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
8	保険の経済学(3)：損害保険 自動車保険について知る					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
9	保険の経済学(4)：損害保険 火災保険と地震保険他					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
10	保険の経済学(5)：損害保険 医療・介護保険					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
11	税金の経済学(1)：税制概論 税金の種類と特徴					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
12	税金の経済学(2)：所得税 所得税のしくみと実際、家族構成と所得税、控除制度					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
13	税金の経済学(3)：税金の計算 確定申告について					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
14	税金の経済学(4)：税金トピックス 消費税やガソリン税、補助金・助成金のあらまし					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
15	本講座のまとめ：					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
教本： 滝澤ななみ「みんなが欲しかった！FPの教科書3級 2020—2021年」TAC出版。 また、適宜、資料を配布します。									
参考文献： 初回講義日に提示します。									
成績評価の方法、評価基準： 定期試験またはレポート（80％）等で総合評価する。追加レポートあり。(加点する。)									
学生へのアドバイス： 勉強する項目は比較的多いですが、どれも身近なトピックスです。必ずや今後の経済活動に役立ちます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ファイナンシャル・プランニングⅡ（Financial PlanningⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ファイナンシャル・プランニングⅠでは、主に誰もが関わるテーマを扱いました。本講座では長期的な観点のライフステージから社会保険制度と相続、さらに資産形成の領域から投資について講義します。なお、講義後にFP検定問題を扱うこともあります。									
授業目標： FP受験レベルの知識の習得									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：ファイナンシャル・プランニングの意味と範囲 (1) 資産形成とは (2) 預貯金と投資、投機 (3) 動産と不動産					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義(60分) 演習(30分)	
2	資産形成・管理1： (1) 不動産とは何か (2) 不動産価格 (3) 鑑定評価の方法					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
3	資産形成・管理2： (1) 宅地建物取引業法 (2) 不動産の売買契約 (3) 不動産の税金					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
4	資産形成・管理3： (1) 借地借家法 (2) 区分所有法 (3) 都市計画法 (4) 建築基準法 (5) 農地法 他					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
5	社会保険の経済学1： (1) 年金とは何か (2) しくみと問題 (3) 年金政策					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
6	社会保険の経済学2： (1) 基礎年金と厚生年金 (2) 公的年金と社会保障制度					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
7	投資と投機の経済学1： (1) 信託 (2) 安全資産としての信託、メリット、デメリット					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
8	投資と投機の経済学2： (1) 株 (2) わが国の株式市場の現況と投資の基礎					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
9	投資と投機の経済学3： (1) リスク・マネジメント (2) リスクとリターンをどう考えるか					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
10	相続1： (1) 世代交代 (2) 不可避免的に訪れる相続の実際 (3) 相続の承認と放棄 (4) 遺産分割					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
11	相続2： (1) 遺言と遺贈 (2) 「遺言書」の基本と法律 (3) 税制					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
12	相続3：ケース・スタディ (1) 賢い相続はあるのか (2) 相続税 (3) 贈与税					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
13	事業継承1： (1) 会社とは何か (2) 会社の規模、種別による特徴 (3) 能力と権力					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
14	事業継承2： (1) Going Concern (2) 代替わりのケース・スタディ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
15	まとめ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義(60分) 演習(30分)	
教本： 滝澤ななみ「みんなが欲しかった！FPの教科書3級 2020—2021年」TAC出版。 また、適宜、資料を配布します。									
参考文献： 初回講義日に提示します。									
成績評価の方法、評価基準： 定期試験またはレポート（80%）等で総合評価する。追加レポートあり。(加点する。)									
学生へのアドバイス： 本講座はファイナンシャル・プランニングⅠのアドバンス版です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フ ィ ー ル ド ワ ー ク (Fieldwork)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	質 的 調 査 法 を 履 修 し て い る こ と 。							
	そ の 他								
授 業 概 要 ： 街 に出 て 地 域 社 会 が 直 面 す る 課 題 を 解 決 す る 目 標 に 質 的 調 査 法 (研 究 法) を 駆 使 、 探 求 し ま す 。 そ こ で 、 質 的 調 査 法 が 履 修 済 み で あ る こ と を 前 提 条 件 に し ま す 。 な お グ ル ー プ ・ ワ ー ク が 基 本 で す か ら 、 原 則 と し て 欠 席 は 認 め ま せ ン 。									
授 業 目 標 ： ① 地 域 社 会 を 対 象 に パ ー ト ナ ー 関 係 を 形 成 し 調 査 研 究 す る 態 度 を 育 成 す る 。 ② チ ー ム ワ ー ク で 課 題 達 成 す る 協 働 関 係 力 を 学 ぶ 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義	
2	リ レ ー シ ョ ン 形 成					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
3	ワ ー ク デ ザ イ ン を 考 え る					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
4	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 手 順					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
5	ワ ー ク デ ザ イ ン の 実 施					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
6	リ サ ー チ マ イ ン ド の 育 成					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
7	プ レ ゼ ン ・ シ ー ト の 作 成					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
8	ワ ー ク 成 果 の 発 表					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
9	フ ィ ー ド バ ッ ク					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
10	地 域 社 会 へ の 提 言					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
11	今 後 の 課 題 解 決 へ の 展 望					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
12	自 己 ・ 他 者 ・ 社 会 と の 関 係 性 を 考 え る					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
13	フ ィ ー ル ド ワ ー ク で の 学 び と は 何 か					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
14	フ ィ ー ル ド ワ ー ク で 情 報 発 信					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義 と 演 習	
15	授 業 の ま と め					事 前 ： な し 事 後 ： 復 習		講 義	
教 本 ： 『WIN－WIN－WIN ワークブック』、 菅沼憲治、菅原印刷株式会社					参 考 文 献 ： 授 業 中 に 随 時 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 ： 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス ： 授 業 内 外 で の フ ィ ー ル ド ワ ー ク が 中 心 の 授 業 で す 。 学 生 相 互 の コ ラ ボ レ ー シ ョ ン を 求 め ま す 。									
オ フ ィ ス ア ー ： 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	物 権 法 (Property Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	法学／私法学Ⅰ／私法学Ⅱ							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、民法第二編物権の中の所有権、物権変動を中心に講義を行ないます。物権法の全体像を概観した後、所有権と物権変動に重点を置き、用益物権をテーマとして取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 物権法の基本的な知識を習得し、所有権、物権変動といった物権法の主要領域の法的諸問題を把握し、説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）				事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	民法財産法－物権法の概要				事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	物権法定主義／物				事前：物権法定主義について調べる。 事後：物権法定主義とその根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	所有権の内容				事前：所有権の内容に関する民法の規定を調べる。 事後：資料の整理			講義60分 ディスカッション30分	
5	所有権の効力(1) 物権的請求権の種類と内容				事前：物権的請求権について調べる。 事後：物権的請求権の種類をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	所有権の効力(2) 請求権競合／返還請求権における利害調整				事前：請求権競合とは何かを調べる。 事後：返還請求権における利害調整をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	所有権の原因(1) 取得原因／取得時効				事前：契約以外の所有権の取得原因について調べる。 事後：取得時効の存在理由についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	所有権の原因(2) 原始取得／添付／付合				事前：所有権の原始原因について調べる。 事後：日本の付合法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	物権変動(1) 物権変動とは何か／契約による不動産の物権変動				事前：物権変動のメカニズムについて調べる。 事後：不動産の対第三者対抗要件についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	物権変動(2) 契約による動産物権変動の対抗要件				事前：動産物権変動の対抗要件について調べる。 事後：動産の公示、引渡しについてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	物権変動(3) 公信の原則－動産物権変動における取引安全保障				事前：公信の原則について調べる。 事後：動産の即時取得についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	共同所有関係(1) 共有				事前：共有の法律関係について調べる。 事後：共有の法律関係について調べる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	共同所有関係(2) 建物の区分所有				事前：区分所有法について調べる。 事後：建物区分所有法の特徴についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	用益物権(1) 地上権／地上権と賃貸借				事前：地上権について調べる。 事後：地上権と賃貸借についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	用益物権(2) その他の用益物権				事前：地上権以外の用益物権について調べる。 事後：用益物権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	物的担保法（Real Security Law）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／人的担保法							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、民法第二編物権の中の担保物権を中心に講義を行ないます。まず物権法の全体像と所有権、用益物権、物権変動を概観し、担保物権のうち、最も重要な抵当権を重点に、質権や法定担保物権、非典型担保物権を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 担保物権の基本的な知識を習得し、抵当権とは何か、その法的な論点はどのようなものかについて説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	債権法の概要				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	抵当権(1) 物的担保法序説／抵当権とは何か				事前：物的担保について調べる。 事後：抵当権の概要についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	抵当権(2) 被担保債権／目的物(1) 抵当権の及ぶ範囲				事前：抵当権の被担保債権について調べる。 事後：抵当権の及ぶ範囲についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	抵当権(3) 目的物(2) 物上代位				事前：物上代位とは何かを調べる。 事後：物上代位についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	抵当権(4) 目的物(3) 土地と建物が別個の不動産とされることから生ずる問題				事前：法定地上権とは何かを調べる。 事後：法定地上権にまつわる問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	抵当権(5) 実行前の抵当権の効力(1) 設定者の使用収益権／第三者への利用権の設定				事前：抵当権実行前の効力について調べる。 事後：第三者への利用権の設定をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	抵当権(6) 実行前の抵当権の効力(2) 抵当権に対する侵害行為／抵当不動産の第三取得者との関係				事前：侵害に対する効力について調べる。 事後：第三取得者との関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	抵当権(7) 実行段階の問題				事前：担保不動産の競売・収益執行について調べる。 事後：担保不動産の競売・収益執行についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	抵当権(8) 抵当権の消滅				事前：一般的な消滅原因について調べる。 事後：抵当権の消滅時効についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	抵当権(9) 根抵当権				事前：根抵当権について調べる。 事後：根抵当権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	質権				事前：質権について調べる。 事後：質権の効力についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	非典型担保(1) 譲渡担保／売渡担保				事前：譲渡担保／売渡担保について調べる。 事後：譲渡担保／売渡担保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	非典型担保(2) 仮登記担保／所有権留保／その他の担保				事前：仮登記担保／所有権留保について調べる。 事後：仮登記担保／所有権留保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	まとめ				事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	フランス語Ⅰ（FrenchⅠ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	平野 由里子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。									
授業目標： フランス語に初めて接する学生を対象とし、abc から丁寧に学んでゆきます。発音の決まりと初歩的な文法の修得をめざします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Leçon 1 文字と音 (1) アルファベとその発音					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
2	Leçon 1 文字と音 (2) 自己紹介と数字 0～10					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
3	Leçon 1 文字と音 (3) 復習とヨーロッパ地図クイズ					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
4	Leçon 2 綴り字と発音 (1) フランス語の発音の規則					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
5	Leçon 2 綴り字と発音 (2) 町の名前を発音してみよう					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
6	Leçon 2 綴り字と発音 (3) 動物や植物の名前を発音してみよう					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
7	Leçon 2 綴り字と発音 (4) 発音の復習と数字 11～20					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
8	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (1) 家族・友人の言い方と不定冠詞					事前：P.24 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習	
9	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (2) 身近なものの言い方と「～を持っています」という動詞					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
10	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (3) 年齢の言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
11	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (4) Leçon 3 の復習					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
12	Leçon 4 紹介する (1) 国籍・職業の言い方					事前：P.32 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習	
13	Leçon 4 紹介する (2) 人について尋ねる言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
14	Leçon 4 紹介する (3) 人の特徴の言い方と数字 21～69					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
15	Leçon 4 紹介する (4) Leçon 4 の復習					事前：なし 事後：テスト勉強		講義と演習	
教本： 参考文献： Avec ça? C'est tout!（これだけでフランス語） 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ￥2,300									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、平常点（50%）、定期試験（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。									
オフィスアワー： 授業後15分程度、講師控室にいます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フ ラ ン ス 語 I (French I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる（＝スパイラル）ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める(発音の練習など)。									
授 業 目 標 : フランス語の基礎を身に付く。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	Phonétique 1－発音					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	Leçon 1－挨拶、自己紹介 自己紹介をする					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
3	Leçon 1－挨拶、綴り、国籍 自己紹介をする					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
4	Leçon 2－今住んでいるところについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
5	Leçon 2－今住んでいるところについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
6	Leçon 3－交通手段について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
7	Leçon 3－交通手段について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
8	Leçon 4－アルバイトについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
9	Leçon 4－アルバイトについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
10	Leçon 5－ペットなどについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
11	Leçon 5－ペットなどについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
12	Leçon 6－科目、先生について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
13	Leçon 6－科目、先生について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
14	テスト					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
15	アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教 本 : Moi, je...コミュニケーション					参 考 文 献 : Bruno Vannieuwenhuysse, Alma 出版				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授業参加状況等（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎日 5 分でも練習しよう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	フランス語Ⅱ（FrenchⅡ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	平野 由里子								
履 修 条 件	前提科目	フランス語Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。									
授業目標： フランス語コミュニケーションⅠを習得した学生を対象とし、フランス語の初級文法を修得することをめざします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	フランス語コミュニケーションⅠの復習					事前：Leçon 4 まで見直す 事後：授業内容復習		講義と演習	
2	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う（1）「～に住んでいます」					事前：P.40 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習	
3	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う（2）「～が好きです」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
4	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う（3） いろいろな動詞					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
5	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う（4） Leçon 5 の復習					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
6	Leçon 6 否定文・疑問文（1）「～ではありません」「～を持っていません」					事前：P.48 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習	
7	Leçon 6 否定文・疑問文（2）「～が好きではありません」「～しません」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
8	Leçon 6 否定文・疑問文（3）「～ですか?」「何をしますか?」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
9	Leçon 7 時刻・天候を言う（1） 足し算・引き算・年齢					事前：P.56 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習	
10	Leçon 7 時刻・天候を言う（2） 時刻の言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
11	Leçon 7 時刻・天候を言う（3） 天候の言い方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
12	Leçon 8 行き先を言う（1）「～へ行きます」					事前：P.64 単語調べ 事後：授業内容復習		講義と演習	
13	Leçon 8 行き先を言う（2）「～から来る」					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
14	Leçon 8 行き先を言う（3） カフェで注文する					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
15	これまでの復習					事前：なし 事後：テスト勉強		講義と演習	
教本： Avec ça? C'est tout!（これだけでフランス語） 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ￥2,300 参考文献：									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、平常点（50%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。									
オフィスアワー： 授業終了後、15分程度講師控室にいます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	フランス語Ⅱ（FrenchⅡ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前提科目	フランス語Ⅰ							
	そ の 他								
授業概要： 最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる（＝スパイラル）ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める（発音の練習など）。									
授業目標： フランス語をもっと身に付く。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Leçon 7－食べ物について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	Leçon 7－食べ物について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
3	Leçon 8－家事について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
4	Leçon 8－家事について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
5	Leçon 9－クラブ活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
6	Leçon 9－クラブ活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
7	Leçon 10－習慣について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
8	Leçon 10－習慣について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
9	Leçon 11－週末の過ごし方について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
10	Leçon 11－週末の過ごし方について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
11	Leçon 12－時間について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
12	Leçon 12－時間について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
13	Leçon 13－休暇中の活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
14	テスト					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
15	アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教本： Moi, je...コミュニケーション					参考文献： Bruno Vannieuwenhuysse, Alma 出版				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎日 5 分でも練習しよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	フランス語コミュニケーション (French Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	平野 由里子								
履 修 条 件	前提科目	フランス語Ⅰ及びⅡを履修していることが望ましい							
	そ の 他								
授業概要： フランスの世界遺産や食文化をおもな題材としてフランス文化に親しむように考えられた教科書を使って、フランス語のコミュニケーションを学びます。 動画や音声資料を活用して目や耳でフランス語に接し、フランス語を話すことを体験してもらいます。									
授業目標： フランス語の基礎を理解して、簡単なコミュニケーション力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション～Leçon 1 自己紹介する					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
2	Leçon 2 物を指し示す					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
3	Leçon 3 尋ねる					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
4	Leçon 4 買い物をする					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
5	Leçon 5 物や人について尋ねる					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
6	Leçon 6 場所を尋ねる					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
7	Leçon 7 ～したいと言う					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
8	Leçon 8 興味を述べる					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
9	Leçon 9 誘う					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
10	Leçon 10 天候と時刻を言う					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
11	Leçon 11 数量を示す					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
12	Leçon 12 比較する					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
13	Leçon 13 過去のことを話す					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
14	Leçon 14 仮定する					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
15	復習					事前：なし 事後：復習		講義と演習	
教本： バリーボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅 1 参考文献：									
成績評価の方法、評価基準：授業目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 間違えを恐れずに、大きな声を出して練習しましょう。									
オフィスアワー： 講義の前後10分は講師控え室にあります。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	プログラミング基礎（Programming）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論（PCの基本的な操作については既知とする）							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： コンピュータは、機械の言語であるプログラムから命令されることによって動いています。このプログラムは決められたルールに基づいて動きます。そのプログラムの基本について、主にゲームを作るという目的のもと、理解する。									
授業目標： プログラミングの基本的なルールを理解し、プログラミング思考を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、プログラムができるまで					事前：シラバスを読む 事後：PC環境の整備		講義 60 分 演習 30 分	
2	プログラミングとは					事前：資料精読 事後：小テスト提出		講義 30 分 演習 60 分	
3	コンピュータが動く仕組み					事前：資料精読 事後：小テスト提出		講義 30 分 演習 60 分	
4	コンピュータの仕事の流儀					事前：資料精読 事後：小テスト提出		講義 30 分 演習 60 分	
5	Processingでプログラムを始めよう					事前：ソフトのインストール 事後：ソフト準備		講義 30 分 演習 60 分	
6	Processingで図形を描こう					事前：精読①（13-50） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
7	関数					事前：精読①（51-62） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
8	変数					事前：精読①（62-70） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
9	画像表示					事前：精読①（71-74） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
10	乱数					事前：精読①（75-89） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
11	条件分岐					事前：精読①（91-105） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
12	繰り返し					事前：精読①（106-120） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
13	間違い探しゲームを作ろう					事前：精読①（121-142） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
14	配列、ゲーム構想					事前：精読①（143-162） 事後：課題提出		講義 30 分 演習 60 分	
15	ゲーム構想発表					事前：発表準備 事後：小テスト		発表 90 分	
教本：『はじめてのプログラミング』（技術評論社） 参考文献：『プログラミング基礎の基礎』（技術評論社）									
成績評価の方法、評価基準： 課題提出（60%）、授業内での演習（30%）、定期試験（10%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： コンピュータのプログラミンはどのように動くのかの興味を持って臨んでください。毎回の課題は必ず提出してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義										
授業科目(英文)	文化遺産と観光（Cultural Heritage and Tourism）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	古 賀 学																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： 国内外の世界遺産を中心として文化遺産の保護と活用における観光のあり方について学修する。世界遺産検定取得のための講義でもあり、そのための講義なども行う。																			
授業目標： ①文化遺産と観光のあり方の理解 ②世界遺産検定 3 級・ 2 級の取得レベルの世界遺産の知識																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○ 1 つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
◎						○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	(1)文化遺産と観光の構成及び世界遺産検定の内容 ①文化遺産と観光の構成 ②世界遺産検定の内容					事前：文化遺産に関する予備知識の取得 事後：文化遺産と観光についてまとめ。		講義 70分 小テスト 20分(適宜)											
2・3	(2)世界遺産の体系 ①世界遺産とは ②世界遺産登録関連組織 ③世界遺産申請と登録の流れ ④数字で見る世界遺産					事前：ユネスコに関する調査を行う。 事後：世界遺産関連組織と世界遺産申請のながれについてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜)											
4～7	(3)日本の世界遺産 法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地、古都京都の文化財、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム、厳島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺産群、紀伊山地の霊場と参詣道、知床、石見銀山遺跡とその文化的景観、小笠原諸島、平泉・仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群、富士山・信仰の対象と芸術の源泉、富岡製糸場と絹産業遺産群、明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業、ル・コルビュジェの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、百舌鳥・古市古墳群・古代日本の墳墓群、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島、北海道・北東北の縄文遺跡群					事前：日本の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験（適宜）											
8～12	(4)海外の世界遺産 アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、アフリカの世界文化・自然・総合遺産					事前：海外の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験(適宜)											
13～15	(5)テーマ別世界遺産 ①文化的景観 ②戦争・紛争 ③地震 ④危機遺産 ⑤負の遺産					事前：テーマ別に世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験(適宜)											
教本： 世界遺産 100（3 級もしくは 2 級公式テキスト）授業内にて一括申し込み										参考文献： 世界遺産検定公式過去問題集									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。模擬試験・検定試験は学期末試験の評価には加算しない。																			
学生へのアドバイス： 世界遺産検定 3 級及び 2 級の実力をつけることをめざす。検定は年に数回行われるので受講の時期は自由である。基本は 3 級であるが 2 級受講者がいる場合は授業内に 2 級のための講義を設ける。もちろん受験の意思がなくても受講は可能である。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化交流史 A (History of Cultural Exchange A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学等の文化学							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、文化人類学をベースとして、文化が接触・交流する際に、どのような現象が生じるのかを基礎的な事項から考察する。文化とは何か、それが接触・交流するとはどのようなことかという視点をまずは身につけることから始めてゆく。									
授業目標： 教科書的な「文化」認識から自由になること。自分が体験した異文化交流を学問的視点から捉えなおす。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文化の新たな考え方					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
2	「自分」の中の異文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
3	赤坂憲雄『異人論』					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
4	文化の多重性					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
5	岡正雄『異人その他』					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
6	魔性の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
7	異人歓待儀礼とは					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
8	都市社会の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
9	エスニシティとは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
10	エスニシティとは何か(2)					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
11	メイスナーティーンと多言語社会					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
12	創造される「民族」					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
13	文化交流と観光					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
14	人口移動と文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90 分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし			参考文献： 授業中にたくさん紹介します。						
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文化を理解することは、思っている以上に苦労が多いことです。高校までののっぺりした文化の考え方を早く抜け出すことを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 交 流 史 B （History of Cultural Exchange B）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 等 の 文 化 学							
	そ の 他								
授 業 概 要： 同じ授業のAをベースに、さらなる交流のあり方を考察する。同じ現象でも、視点が変化することで全く異なる像が浮かび上がることも体験していただきたい。									
授 業 目 標： 異文化をどのように理解するかに関して、自分の視点を確立する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	文化交流史Aの復習					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	文化変容の理論					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	地球規模の文化人類学					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	分裂生成					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	分裂生成Ⅱ					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	分裂生成Ⅲ					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	画像に表れた表象					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	制度化された異文化交流					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	「怠け者民族」の神話					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	「怠け者民族」の神話 2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	文化分配論					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	文化分配論 2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	文化分配論 3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	「生活形態」とは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：		試験あるいはレポート	
教 本： なし					参 考 文 献： 授業中にたくさん紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 授業で教わることから自分なりの視点を見つけるようにしてください。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	文化心理学（Cultural Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 自己表現のスタイルに「アサーティブ」というものがある。言語が多様であるように文化により自己表現も一律ではない。本講義は、心理学の視点からアサーティブな自己表現を学ぶ。									
授業目標： ① 相手を立てつつ自己表現することの意義を学ぶ。 ② 文化が人間の心に及ぼす要因を実証的研究から分析し理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アサーティブネスとは					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	アサーティブネスの査定について					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
3	自己成長を記録する					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
4	自己表現の権利とは何か					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
5	アサーティブな生き方とは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
6	アサーティブネスの事例					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
7	アサーション・トレーニングの目標設定					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
8	アサーション・トレーニングのスキル					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
9	21世紀のアサーティブ・メッセージ					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
10	アサーティブに考えるとは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
11	恐怖感情への対処法					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
12	トレーニング・プログラムについて					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
13	プログラムの進め方					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
14	アサーティブネスが平等な人間関係を築く意味					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 参考文献： 『増補改訂 セルフ・アサーション・トレーニング』、 菅沼憲治著、東京図書									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義	
授 業 科 目 (英 文)	文化人類学 A (Cultural Anthropology A)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	川添 裕子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom 利用。								
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、人間と社会について学んでいく。人間の基本的営みから文化的側面を学んだ後、具体的な身体加工実践をテーマに、身体の文化的側面について学ぶ。理解度についてはリアクション・ペーパー、小テストで確認する。										
授業目標： 1. 文化の普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○				◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習(学習課題)		授業形態		
1・2	人間と文化：人類史、文化相対主義に学ぶ。ダーウィン「進化論」、「人種」概念の誤った認識を確認する。					事前：高校世界史 事後：1 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
3	個人・家族・コミュニティ：性差の知見の変遷、婚姻、親子関係の多様性、現代日本の家族観について学ぶ。					事前：LGBTs 記事 事後：3 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
4	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分		
5	人生と通過儀礼：分類、区分について学び、ライフサイクルについて考える。					事前：成人式とは 事後：4 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
6	宗教と世界観：人類史から信仰について学ぶ。現代世界の状況について議論を行う。					事前：クリスマスとは 事後：5 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
7	健康・治療・医療：身体の観念と体系の地域的多様性と歴史的変遷について学ぶ。					事前：健康のイメージ 事後：6 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
8	人間と死：死の判定、死者儀礼について学び、今日における死の問題について議論する。					事前：葬式のイメージ 事後：7 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
9	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分		
10	身体的人类学①：身体技法（文化的に規定された特定の身体所作について学ぶ）					事前：しぐさ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分		
11	身体的人类学②：体毛（髪型、ひげ、ムダ毛について学び議論する）					事前：脱毛のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分		
12	身体的人类学③：衣（多様性、記号論について学び議論する）					事前：衣装のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分		
13	身体的人类学④：化粧（メイクアップ、ボディペインティングについて学び議論する）					事前：化粧のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分		
14	調査法：質的研究について学び、フィールドワークの特徴について理解する。					事前：アンケート経験 事後：2 章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分		
15	まとめ					事前：疑問点整理 事後：試験準備する		講義60分、質疑応答30分		
教本： 初回講義日に文献情報を伝える。										参考文献： そのつど紹介します。
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（50％）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 文献や各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文化人類学B（Cultural Anthropology B）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、人間と社会について学んでいく。人間の基本的営みから文化的側面を学んだ後、具体的な身体加工実践をテーマに、身体の文化的側面について学ぶ。理解度についてはリアクション・ペーパー、小テストで確認する。									
授業目標： 1. 文化の普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1・2	人間と文化：人類史、文化相対主義に学ぶ。ダーウィン「進化論」、「人種」概念の誤った認識を確認する。					事前：高校世界史 事後：1章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
3	個人・家族・コミュニティ：性差の知見の変遷、婚姻、親子関係の多様性、現代日本の家族観について学ぶ。					事前：LGBTs 記事 事後：3章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
4	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
5	人生と通過儀礼：分類、区分について学び、ライフサイクルについて考える。					事前：成人式とは 事後：4章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
6	宗教と世界観：人類史から信仰について学ぶ。現代世界の状況について議論を行う。					事前：クリスマスとは 事後：5章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
7	健康・治療・医療：身体の観念と体系の地域的多様性と歴史的変遷について学ぶ。					事前：健康のイメージ 事後：6章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
8	人間と死：死の判定、死者儀礼について学び、今日における死の問題について議論する。					事前：葬式のイメージ 事後：7章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
9	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
10	身体人類学①：身体技法（文化的に規定された特定の身体所作について学ぶ）					事前：しぐさ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
11	身体人類学②：筋トレ（スポーツ、筋トレについて学び議論する）					事前：筋トレのイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
12	身体人類学③：タトゥ（伝統面、ファッション面について学び議論する）					事前：タトゥのイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
13	身体人類学④：美容整形（歴史と現状について学び議論する）					事前：美容整形のイメージ 事後：観察		講義60分、 ディスカッション20分、記述10分	
14	調査法：質的研究について学び、フィールドワークの特徴について理解する。					事前：アンケート経験 事後：2章の復習		講義60分、 質疑応答10分、記述20分	
15	まとめ					事前：疑問点整理 事後：試験準備する		講義60分、質疑応答30分	
教本： 初回講義日に文献情報を伝える。									
参考文献： そのつど紹介します。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文献や各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	文学と観光（Literature and Tourism）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 紀行文、純文学、俳句などを通して文学と観光の構造を理解し、文学を生かした空間整備、観光ルートの設定、旅行商品化、地域ブランド化などについて学修する。観光を学ぶ上で是非読むべき文学作品についても学修する。本講座では講義の意味での文学を扱うものとする。									
授業目標： 1. 文学を通してテーマ別観光の構造を理解する。 2. 観光振興における文学の活かし方、観光地づくりの手法を学修する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1・2	文学と観光の構造を理解する ・文学とは ・コンテンツ・ツーリズムと文学の旅 ・文学の旅の実像と虚像 ・文学の映像化と観光 ・文学と漫画					事前：コンテンツ・ツーリズムについて予習する 事後：観光と旅の構造について復習し理解を深める			講義及び発表
3・4	文学と観光のかかわりについて体系的に学修する。 ・文学と観光地 ・文学碑など文学遺産と観光（舞台、執筆処、生家など） ・文学の映像化と観光地（川端康成「伊豆の踊子」と大島等）					事前：「伊豆の踊子」を熟読する 事後：文学の映像化と観光について復習する			講義及び発表
5～7	松尾芭蕉「奥の細道」と現在の観光の対比 ・俳句と季語と観光資源 ・松尾芭蕉と紀行文 ・奥の細道と観光地・観光コースとしての現状					事前：「奥の細道」及び「季語集」を熟読する 事後：「奥の細道」と現代の観光との関係を復習する			講義及び発表
8・9	十返舎一九「東海道中膝栗毛」とお伊勢参り ・東海道の形成と移動 ・東海道中膝栗毛と十返舎一九 ・東海道中膝栗毛の行程と宿場と街道筋					事前：「東海道中膝栗毛」を熟読する 事後：江戸時代の旅について理解を深める			講義及び発表
8	イザベラ・バード「日本奥地紀行」など明治期における外人の日本紀行から外国人の目から見た日本の旅の昔を考察する。 ・外国人の体感した日本 ・会津の旅と観光地 ・阿賀野川の旅					事前：「日本奥地紀行」を熟読する 事後：明治時代の外国人から見た日本での旅の様子について理解を深める			講義及び発表
9～13	文学のまち・みちと観光 ・鎌倉×鎌倉文学 ・京都×京都文学 ・城崎×志賀直哉「城の崎にて」 ・柳川×北原白秋生家 ・松山×夏日漱石「坊ちゃん」×俳句ポスト×坊ちゃん列車 ・五所川原×太宰治生家 ・松江×ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） ・その他					事前：文学者と地域の観光地化について調べる 事後：観光地における文学とのつながりについてさらに理解を深める			講義及び発表
14	漫画とアニメと観光 ・聖地巡礼 ・アニメの舞台と観光地					事前：文学としての漫画について考察し観光地との関連を考察する 事後：			講義及び発表
15	文学と観光の体系を踏まえ今後の観光活用について考察する。					事前：総復習を行う 事後：本を読むことを習慣とする			講義及び発表
教本： 各回取り上げる文学作品及び必要に応じてテキスト資料を配布。					参考文献： 各回で必要に応じて指示				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本を読むこと									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本は出講日いつでも可。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	文芸創作（Literary Creation haiku）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・授業は、俳句を創作し、鑑賞・批評を基に創作活動を中心におこなう。 ・合評会による討議により、発想や技法を学ぶと共に、教師の講評でさらに深める。									
授業目標： ・現代俳句について理解し、言語感覚を磨く ・合評会により、鑑賞眼及び創作の発想・技術を習熟する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現代俳句（オリエンテーション）					事前 なし 事後：		講義	
2	現代俳句とは何か（季語等について）					事前：なし 事後：復習		鑑賞＋語り合い	
3	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
4	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
5	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後自作を推敲する：		鑑賞＋合評会	
6	松尾芭蕉の推敲					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		講義＋討論	
7	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
8	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
9	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
10	吟行＋選句					事前：なし 事後：なし		吟行＋句会	
11	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
12	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
13	句集づくり ①					事前： 自作句から6句選ぶ 事後：最終推敲		句集づくり	
14	句集づくり ②					事前：ワープロで整えてくる 事後：推敲する		句集づくり	
15	まとめ 文芸「森の里」にまとめる。					事前：なし 事後：なし		鑑賞会	
教本： 季語集（冬・新年）授業で紹介し購入する。					参考文献： その都度授業中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、俳句創作（60％）、合評力（20％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 俳句を楽しみ、日本の文化を身に着ける授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 課 程 論 (Early Childhood Education Courses) (保 育)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。									
授業目標： 教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（授業の進め方と評価について） カリキュラムの意味と保育計画					事前：特になし 事後：本授業の復習		講義 90分	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解：カリキュラム・マネジメントとは					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム（明治期・大正期・昭和期・平成期）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム（創設の背景とその役割）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画					事前：子どもの発達の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方					事前：指導計画の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
9	指導計画作成の実際					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：地域について知る 事後：本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分	
13	命を大切にすることを培う保育実践と教育課程・保育課程					事前：道徳について知る 事後：本授業の復習		講義 90分	
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：環境について調べる 事後：本授業の復習		講義 90分	
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望					事前：考えをまとめる 事後：特になし		講義 60分、 グループ討議 30分	
教本： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)						参考文献： 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館(2013年)			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育・教職実践演習（幼稚園）（Internship for Preschool Guidance (Kindergarten)）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・大沢 裕・中村淳子・小野 和								
履 修 条 件	前提科目	教育実習、保育実習の科目が終了しているもの							
	そ の 他	幼稚園教諭免許のみの人は、教育実習科目が終了しているもの							
授業概要： 保育・教育者としての使命感を持てるよう、保育・教育に関わる課題を順次取り上げ、それに対する分析・考察・検討を行い、保育・教育者としての総合的なものの見方・考え方を身につけさせる。またそれとともに、子どもや保護者を援助する方法を学習させる。必修科目と選択必修科目の履修状況や、実習等を通しての学びを踏まえ、保育・教育者として必要な知識・技能を修得したかを振り返り、確認させる。授業形式としては、グループ討議、ロールプレーイング、事例研究、現地調査を含む演習を基本とする。必要に応じて、ティーチングアシスタントを配置する。									
授業目標： 組織の一員として、保育・教育に対する使命感や情熱を持ち、保育・教育者としての職責や義務を自覚し、保護者に対しても良好な関係を築き、子どもと豊かな人間的交流を行える資質能力を養う。この科目は、確固たる使命感と熱意を持って教育や保育を行うことのできる人材を育成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義概要について一履修カルテを元に説明一保育や教育現場に出る前に身に付けなければならないことを学ぶ					事前：シラバスを下読みする 事後：自分の目標を定める		講義 40分、グループ討議 20分、 個人目標 30分	
2	保育・教育者の使命感・責任感・愛などをグループ討議し、それぞれのグループで発表し合い、学びを深める					事前：配布資料の下読み 事後：グループ討議のまとめ		講義 20分、グループ討議 20分、 発表 50分	
3	保育・教育者に求められるもの一対人関係能力一厚木市子ども育成課委員との意見交換…厚木市の子育て政策について					事前：市の子育て政策の下調べ 事後：自分の意見をまとめる		講義 40分・意見交換 50分、 レポート提出	
4	乳幼児に対する共感的理解…子どもの発達課程を踏まえ、乳幼児に対する共感的理解を総合的に展開されることが重要					事前：指針等で発達課程の確認 事後：自他の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分	
5	生きる力を育む教育…保育所保育指針、幼稚園教育要領をもとに学ぶ					事前：指針で事前に調べる 事後：自分なりの意見を集約		講義 60分、グループ討議 30分	
6	クラス運営の手法…一人一人の活動の場面に応じて、その活動が豊かになるようにクラス運営を考える					事前：資料を事前に確認する 事後：自分の意見をまとめる		園長との意見交換 90分	
7	協同する経験…友達と関わる中で、互いの思いや考えを共有し、共通の目的の実現に向け、考えや工夫により充実感を得る					事前：指針を事前に下読みする 事後：指針で再確認する		講義 60分、グループ討議 30分	
8	特別支援教育…特別な配慮を必要とする乳幼児に対しての理解促進や、地域との連携を学ぶ					事前：指針や要領で確認する 事後：自分の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分	
9	指導計画一指導案作成一指導計画を作成し、実際に演じたり、発表したりして、互いに学びを深める					事前：自分なりの資料を探す 事後：他の人の意見もまとめる		模擬授業の作成 90分	
10	指導の具体化一模擬保育…具体的に模擬保育を行い、保育・教育者としての資質を深める					事前：模擬授業の事前準備 事後：模擬授業の反省をする		模擬授業の発表と反省 90分	
11	園の安全管理…施設・設備等の安全管理や災害発生時の対応体制や避難への備えなど具体的に学ぶ					事前：配布資料を基に予習 事後：自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分	
12	保育現場の実際一認定こども園見学・演習一見学やDVDの観賞などから現場の実際を学ぶ					事前：配布資料で予習する 事後：自分なりのまとめをする		DVD 観賞 40分、 レポート 30分、意見交換 20分	
13	家庭との連携・保護者支援…保護者と連携して子どもの育ちを支える視点を学ぶ					事前：指針や要領で事前準備 事後：自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分	
14	保育現場に出る前に一こども・子育て新制度を踏まえて一子ども・子育て新制度について具体的に学ぶ					事前：子育て新制度の事前確認 事後：自分なりの制度の確認		講義 50分、意見交換 40分	
15	これまでの学びの振り返り…保育・教育者として必要な知識・技能を習得したかの振り返り、確認する					事前：振り返りの事前準備 事後：皆の意見を聞きまとめる		グループ討議と発表	
教本： テキスト「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針」									
参考文献： 授業時、適宜指示する。必要に応じてプリントを配布する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自己課題を持って予習・復習を行ってください。 配布資料および講義内容の整理を行ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	保育原理 (Principles of Early Childhood Education)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 保育・幼児教育の基礎をその知見に則り、広範囲に学ばせる。保育の理念、保育の意義と保育の必要性について把握させる。さらに、保育の場、歴史と現状、保育の目的・内容・方法の関連、保育の計画と評価の仕方、健康・安全、多様な保育ニーズへの対応の仕方、家庭・地域との連携、近年の保育動向・課題など、保育者として必須の基本的知識を習得させる。特に、現在の保育がどのような歴史的、社会的背景によって成立しているのかを考えさせ、保育の社会的役割について理解させる。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。									
授業目標： 保育の意義・理念について理解し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領・保育所保育指針における教育・保育の基本を把握する。保育の内容と方法の基礎を理解する。保育の思想と歴史的変遷について理解する。保育の現状と課題について認識する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	保育の概念と理念					事前： 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
2	教育と福祉の関連					事前：福祉とは何かを考えておく 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
3	保育の意義・社会的役割					事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す		グループ討論 60 分、 発表 30 分	
4	諸外国の保育の思想と歴史					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
5	我が国の保育の思想と歴史					事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
6	幼稚園教育要領・保育所保育指針が示唆するもの					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 60 分、 グループ討論 30 分	
7	遺伝と環境					事前：遺伝を考える 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
8	乳幼児と家庭					事前：家庭の子育てを考える 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
9	幼稚園・保育所・認定こども園の概要					事前：施設の種類の調べる 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
10	子どもの発達段階と子ども理解					事前：成長・発達の情報を得る 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
11	保育制度と保育行政					事前：待機児童の記事を探す 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
12	保育の内容					事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す		講義 60 分、 グループ討論 30 分	
13	保育の方法ー遊びと生活の原理					事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す		講義 60 分、 グループ討論 30 分	
14	保育者の使命と資質ー保育者の専門性					事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す		講義 60 分、 グループ討論 30 分	
15	様々な保育実践と現代の保育課題					事前：時事問題の記事を読む 事後：		講義 90 分	
教本： 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版） 石橋哲成編著『コンパクト版 保育原理』一藝社									
参考文献： 適宜、授業時に指示する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 保育者として必須の保育・福祉に関わる基礎的事項が理解でき、保育的なものの見方・考え方ができているかどうかを、複数回のレポート提出、筆記試験によって総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： 保育の時事問題にいつも関心を持つこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習	
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 I （ 施 設 ） (Internship at a Facility I)						科 目 分 類	専 門 科 目		
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子									
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 指 導 I （ 保 育 所 ・ 施 設 ）								
	そ の 他	保 育 実 習 履 修 資 格 を 満 た し て い る こ と								
授業概要： 1. 施設等での体験を通して、施設の役割や機能、保育の職務（子どもたちや利用者との関わり、他の職員との連携）等を理解する。 2. 施設等で生活している子どもや利用者の活動を観察し、一人ひとりの子どもや利用者に合わせた保育士の支援方法について学ぶ。 3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 5. 施設等での生活実態に触れ、子どもや利用者での家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、支援するために必要とされる能力を養う。										
授業目標： 1. 児童福祉施設や社会福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者とかかわりを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育・利用者の生活等及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育や生活の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎							○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）						事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1 ～ 15	〈児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容〉 1. 施設の役割と機能 (1) 施設における子どもや利用者の生活と保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2. 子どもや利用者の理解 (1)子どもや利用者の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもや利用者の生活と環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもや利用者の心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもや利用者の活動と環境 (4) 健康管理、安全対策と理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理まとめ 事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：実習記録の整理と 実習日誌の記入 児童福祉施設等 (保育所)以外での実習 (90時間以上)									
教本： 講義内で指定資料配布する。										参考文献： 保育実習（保育所・施設）記録―書き方をマスターするために― 保育者養成研究会編 保育出版社
成績評価の方法、評価基準： 実習先の評価（50％）、日誌・記録等（30％）、その他（20％）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 各実習施設に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 I （ 保 育 所 ） (Internship at a Preschool I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	保 育 実 習 履 修 資 格 を 満 た し て い る こ と							
授 業 概 要： 1. 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携）等を理解する。 2. 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。 3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 5. 家族と保育所の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。									
授 業 目 標： 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）						事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態
1 ～ 15	保育所の生活と一日の流れ 保育所保育指針の理解と保育の展開 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解 子どもへの援助やかかわり 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察、自己評価 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 まとめ						事前：実習準備 事後：記録・反省		実 習 (90 時間以上)
教 本：講義内で指定資料配布する。 参 考 文 献：保育実習（保育所・施設）記録一書き方をマスターするために－保育者養成研究会編 保育出版社									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 実習先の評価（50％）、日誌・記録等（30％）、その他（20％）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 Ⅱ（保育所・施設）（Internship at a Preschool or Facility Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前提科目	保 育 実 習 Ⅰ ・ 保 育 実 習 指 導 Ⅱ							
	そ の 他	保 育 実 習 Ⅰ を履修済みであること。							
授業概要： 1．保育実習Ⅰで学んだ基本的内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援、利用者への理解及び生活について総合的に学び、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。 2．保育所実習においては、部分実習や責任実習を通して、子どもとのかかわり方や保育技術及び実践力を身に付ける。施設実習においては、利用者の年齢や発達段階、症状や特性に応じた関わり方や養護技術、介助技術の実践力を身に付ける。 3．保育士と共に保育所または施設における業務などを経験しながら、臨機応変な対応や判断力を身に付ける。									
授業目標： 1．保育所や施設の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2．子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることを通して、理解を深める。 3．既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、利用者への理解及び生活について総合的に理解する。 4．保育所や施設での生活の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5．保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6．実習における自己の課題を明確化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授 業 形 態	
1～15	《保育所実習》 保育実習Ⅰの体験を基に、乳児、幼児と積極的に関わり、指導の実地経験を積む。学校で学んだ理論や技術を実際の現場での指導体験と結びつけ、自らの保育観、目標を確立する。 ○参加実習・責任実習を行なう。 （1）保育所での保育を実際に体験し、保育士としての指導力、技術を身に付ける。 （2）保育士の立場に立って指導計画を立案し、その指導を体験する。 （3）乳児、幼児の安全、衛生面に対する配慮と措置について修得する。 （4）一人一人の乳幼児についての理解を深め、適切な指導と対応を体験する。 （5）保育士としての責任感、使命感を学び、子ども達のための環境作りを考える。 ○保育所の役割や機能について理解を深める。 ○観察に基づく保育を理解する。 ○子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携を理解する。 ○保育計画の作成・実践・観察・記録・評価を体験し、理解する。 ○保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。 ○自己課題を明確化する。 《施設実習》 保育実習Ⅰの体験を基に、利用者の実践活動の状況を見学、観察、参加することにより、それぞれの施設の意義、保育士の職務内容や人的、物的環境が実際の生活の中でどのように活かされているかを理解し学ぶ。 ○自己の課題の明確化。 ○実習施設の目的や機能について理解する。 ○実習施設の一日の流れについて理解し、参加する。 ○利用者の観察や、関わりを通して理解を深める。 ○支援計画について学ぶ。 ○利用者と生活を共にすることにより、養護技術、介助技術を習得する。 ○職員間の役割分担と、チームワークの在り方について学ぶ。 ○施設の行事や地域における活動、交流などを通して、施設と家庭・地域社会との関係について理解する。 ○指導計画の作成、実践、自己評価、反省をする。 ○利用者の最善の利益、権利擁護についての配慮を学ぶ。 ○保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。 ○安全及び疾病予防への配慮について理解する。					事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：保育記録の整理と実習日誌の記入		保育所または施設での実習 (90時間以上)	
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 保育実習（保育所・施設）記録一書き方をマスターするために－ 保育者養成研究会編 保育出版社				
成績評価の方法、評価基準： 実習先の評価（50％）、日誌・記録等（30％）、その他（20％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 指 導 I (保 育 所) (Guidance on Internship at Preschool I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 ・ 小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	保 育 実 習 履 修 資 格 を 満 た し て い る こ と							
授 業 概 要 : 保 育 所 実 習 の 準 備 を 行 う 。 保 育 所 実 習 と 並 行 し て 行 わ れ る 授 業 で 、 実 習 の 目 的 、 保 育 所 の 機 能 、 保 育 士 の 職 務 内 容 や 実 習 手 続 き の 書 類 の 作 成 に つ い て 学 習 す る 。 ま た 、 保 育 所 保 育 指 針 の 内 容 を 理 解 し 、 実 習 生 と し て 保 育 所 生 活 に 参 加 す る こ と を イ メ ー ジ す る 。 子 ど も の を 理 解 し 、 援 助 の 仕 方 に 関 す る 理 解 を 深 め 、 観 察 、 参 加 、 責 任 実 習 の 段 階 に お け る 実 習 内 容 、 実 習 記 録 、 指 導 計 画 に つ い て 学 習 す る こ と を 目 的 と す る 。									
授 業 目 標 : ① 保 育 所 実 習 の 事 前 準 備 と し て の 心 構 え を し っ か り 理 解 し 、 態 度 や 意 欲 を 持 つ よ う に す る 。 ② 積 極 的 に 授 業 に 参 加 を し 、 実 習 の 課 題 を 明 確 に で き る 。 ③ 保 育 者 と し て の 能 力 、 資 質 を 身 に 付 け る こ と が ど う い う こ と か 理 解 し 、 実 習 で 生 か せ る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得				思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎				○					
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保 育 所 実 習 の 意 義 、 目 的 、 心 得 を 知 る 。 施 設 実 習 に つ い て の 説 明 を す る					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後 : 指 定 資 料 を 確 認 し 、 記 入 す る		講 義 70 分 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
2	保 育 所 実 習 の 目 的 を 理 解 す る 。 施 設 実 習 の 実 習 先 を 探 し 、 申 し 込 み を す る					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 指 定 資 料 を 作 成 す る		講 義 60 分 個 別 30 分	
3	実 習 の て び き に そ っ て 実 習 前 に 準 備 す る こ と 。 提 出 書 類 に つ い て 等 説 明 す る					事 前 : 作 成 資 料 の 確 認 を す る 事 後 : 実 習 の て び き を 読 む		講 義	
4	保 育 実 習 報 告 会 に 参 加 し 、 先 輩 の 話 か ら 学 ぶ					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 課 題 レ ポ ー ト を 作 成 す る		発 表 会	
5	実 習 先 提 出 書 類 作 成 指 導 を 行 う 。 実 習 課 題 を 明 確 に す る					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 実 習 課 題 を ま と め る		講 義 30 分 資 料 作 成 60 分	
6	持 ち 物 、 身 だ し な み に つ い て 、 実 習 の て び き を も と に 話 し 合 う					事 前 : 実 習 の て び き を 読 む 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		講 義 30 分 グ ル ー プ ワ ー ク 60 分	
7	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン に つ い て 説 明 す る					事 前 : 実 習 日 誌 を 見 て お く 事 後 : 実 習 園 に つ い て 調 べ る		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
8	保 育 所 の 一 日 と 流 れ 、 実 習 日 誌 の 書 き 方 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習 を す る		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
9	指 導 計 画 の 作 成 に つ い て 学 ぶ 。 「 手 遊 び 」 の 指 導 案 を 作 成 す る					事 前 : 教 材 を 探 す 事 後 : 指 導 案 を 清 書 す る		講 義 30 分 個 別 60 分	
10	模 擬 保 育 を 実 施 す る					事 前 : 模 擬 保 育 の 準 備 事 後 : 記 録 を ま と め る		模 擬 保 育	
11	指 導 計 画 の 作 成 に つ い て 、 全 員 の 模 擬 保 育 を 振 り 返 り 、 修 正 指 導 案 を 作 成 す る					事 前 : 記 録 を 読 み 返 す 事 後 : 指 導 案 を 清 書 す る		講 義 20 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分 発 表 20 分	
12	絵 本 読 み 聞 か せ 指 導 計 画 の 作 成 を す る 。 導 入 ・ 展 開 ・ ま と め ま で の 形 で 計 画 し て い く					事 前 : 教 材 研 究 す る 事 後 : 指 導 案 を 清 書 す る		講 義 20 分 個 別 70 分	
13	模 擬 保 育 の 実 施 ① (1 人 10 分 と し て 、 実 施 し 、 評 価 ・ 反 省 を 行 う)					事 前 : 模 擬 保 育 の 準 備 事 後 : 記 録 を ま と め る		模 擬 保 育	
14	模 擬 保 育 の 実 施 ② (1 人 10 分 と し て 、 実 施 し 、 評 価 ・ 反 省 を 行 う)					事 前 : 模 擬 保 育 の 準 備 事 後 : 記 録 を ま と め る		模 擬 保 育	
15	模 擬 保 育 の 評 価 と 反 省 を す る 。 修 正 指 導 案 を 作 成 し 、 提 出 す る					事 前 : 指 導 案 を 見 直 す 事 後 : 巡 回 指 導 教 員 へ 挨 拶 に 行 く		講 義 30 分 グ ル ー プ ワ ー ク 60 分	
教 本 : 講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る 。					参 考 文 献 : 幼 稚 園 ・ 保 育 所 実 習 ハ ン ド ブ ッ ク 田 中 ま さ 子 編 (株)みらい				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%)、そ の 他 (20%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 各 実 習 園 に 対 す る 注 意 事 項 の 説 明 、 提 出 書 類 の 作 成 等 を 行 う の で 、 原 則 と し て 遅 刻 欠 席 は 認 め な い 。 ま た 実 習 先 へ の 提 出 書 類 の 遅 延 、 授 業 態 度 の 怠 惰 等 で 実 習 の 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 を す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育実習指導Ⅰ（施設）(Guidance on Internship at PreschoolⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前提科目	保育所実習指導Ⅰ（保育所）が終了していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 施設実習の準備を行う。施設実習と並行して行われる授業で、実習の目的、施設養護における保育士の在り方や施設の機能、保育士の職務内容や実習手続きの書類の作成について学習する。また、保育所保育指針の内容を理解し、実習生として施設生活に参加することをイメージする。子どもや利用者を理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。									
授業目標： ①施設実習の事前準備としての心構えをしっかりと理解し、態度や意欲を持つようにする。②積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確にできる。③保育者としての能力、資質を身に付けることがどういうことか理解し、実習で生かせるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	保育所実習の振り返りと自己課題の明確化 保育所実習における反省をし、自己課題ををしっかりと確認する					事前：保育所実習の振り返り 事後：自己課題を確認する		実習評価の反省 60分、 自己課題の確認 30分	
2	施設実習の目的理解 実習先による目的と内容の理解（各実習施設を理解をする）					事前：施設実習の目的理解 事後：実習のまとめをする		講義 90分	
3	実習施設の理解と実習内容・個人票について説明する					事前：実習施設の確認をする 事後：書類の整理をする		講義 60分、意見交換 30分	
4	施設種別ごとの理解をし、実習内容を各自調査する					事前：自分の実習先の確認 事後：調査後の整理をする		講義 30分、調査 60分	
5	DVD を鑑賞する。(乳児園や児童養護施設について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする					事前：施設の種別の確認する 事後：レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分	
6	DVD を鑑賞する。(施設実習の実際について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする					事前：施設の種別の確認する 事後：レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分	
7	実習先提出書類作成指導①自分の実習先に対応するための準備をする (各自の目標や課題、実習にあたっての課題を考える)					事前：実習の具体的内容把握 事後：課題を考える		講義 30分、 調査・課題検討 60分	
8	実習先提出書類作成指導②自分の実習先に対応するため各自の目標や課題、 実習にあたっての課題を書く					事前：実習の具体的内容把握 事後：課題を再確認する		講義 30分、書類作成 60分	
9	実際の作業所に見学に行き、障害者の社会参加について学ぶ					事前：見学の質問を考える 事後：見学のまとめをする		作業所 90分	
10	作業所見学後の意見交換と自己課題の確認をする。レポート提出					事前：意見交換の準備をする 事後：レポート提出		意見交換 30分、自己課題 30分、 レポート 30分	
11	実習日誌の作成指導①…一日の流れを把握する					事前：施設の全体把握をする 事後：一日の流れを再確認		講義 60分、意見交換 30分	
12	実習日誌の作成指導②…一日の課題に対する反省について、書き方を理解する					事前：課題について検討 事後：書き方の見直しをする		講義 60分、意見交換 30分	
13	オリエンテーションについて説明する (具体的に電話の掛け方等実習の手引きを参考に学ぶ)					事前：実習手引きを準備する 事後：電話応答を確認する		講義 60分、意見交換 30分	
14	参加、観察実習の留意点を説明する					事前：実習手引きを準備する 事後：実習の再確認をする		講義 60分、意見交換 30分	
15	実習評価と反省					事前：評価と反省をまとめる 事後：自己評価の確認をする		講義 60分、意見交換 30分	
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編 (株)みらい				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（50%）、その他（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また実習先への提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意をすること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育実習指導Ⅱ（保育所・施設）（Guidance on Internship at PreschoolⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前提科目	保育実習Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： ①保育実習Ⅰで学んだ基本的内容を踏まえ、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。②部分実習や責任実習を通して、保育技術及び実践力を身に付ける。施設実習においては、利用者の年齢や発達段階、症状や特性に応じた関わり方や養護技術、介助技術の実践力を身に付ける。③保育士として臨機応変な対応や判断力を身に付ける。									
授業目標： ①保育所や施設の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。②子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることで理解を深める。③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、利用者への理解及び生活について総合的に理解する。④保育所や施設での生活の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。⑥実習における自己の課題を明確化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	実習Ⅰの学びを振り返り、実習Ⅱの意義、目的、心得等について理解する。				事前：シラバスを読む 事後：指定資料の確認をする		講義 30分、 グループワーク 30分、発表30分		
2	実習Ⅱの目的を理解し、後輩に向けて実習報告会を行なう。その際の発表原稿を準備していく。				事前：実習日誌を見直す 事後：報告会発表原稿作成		講義 20分、グループワーク 60分 発表 10分		
3	実習報告会に参加し、自身の経験を発表するとともに他者の発表から学ぶ。				事前：発表に向けて練習する 事後：感想文を作成する		発表会		
4	実習の目的と留意点を踏まえオリエンテーションについて確認し、実習先提出書類の作成を行なう。				事前：実習の手引きを読む 事後：書類を完成させる		講義を中心に 各自で書類を作成する。		
5	保育実習Ⅰの反省から各自の実習課題を明確にし、書類を作成する。				事前：実習日誌を見直す 事後：実習課題を書く		講義 30分、 資料作成での個別指導 60分		
6	部分実習に向けて、指導計画を作成する。その際の教材や環境構成について検討していく。				事前：教材研究をしておく 事後：指導案を作成する		講義 30分、グループワーク 20分、 個別 40分		
7	指導計画を作成していく中で、保育者の援助や子どもの活動について見直し、ねらいに沿った計画が立てられるようにする。				事前：指導案の見直しをする 事後：模擬保育の準備をする		講義 30分、グループワーク 20分、 個別 40分		
8	模擬保育の実施（前半。一人あたり15分とするため2回に分けて行なう）				事前：指導案を読んでおく 事後：反省と評価を記入する		模擬保育・講評		
9	模擬保育の実施（後半）模擬保育実施後振り返りと評価、反省をする。				事前：指導案を読んでおく 事後：反省と評価を記入する		模擬保育・講評		
10	責任実習に向けて、指導計画を作成する。その際の教材や環境構成について検討していく。				事前：教材研究をする 事後：指導案を書いてみる		講義 30分、グループワーク 20分、 個別 40分		
11	責任実習の中で、保育者の援助や子どもの活動について指導計画を見直し、ねらいに沿った計画が立てられるようにする。				事前：指導案の見直しをする 事後：指導案の修正をする		講義 30分、グループワーク 20分、 個別 40分		
12	責任実習場面での模擬保育を実施し、振り返り、反省・評価を行なう。（前半。一人15分とするため2回に分けて実施）				事前：指導案を読んでおく 事後：反省と評価を記入する		模擬保育・講評		
13	責任実習場面での模擬保育を実施し、振り返り、反省・評価を行なう。（後半）				事前：指導案を読んでおく 事後：反省と評価を記入する		模擬保育・講評		
14	子ども及び利用者の最善の利益、権利擁護についての配慮を学び、保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。				事前：指定資料の予習をする 事後：配付資料をまとめる		講義 50分、グループワーク 20分、 発表 20分		
15	実習評価と反省として事後に行なう。				事前：実習日誌を見直す 事後：お礼状を作成する		講義、各自の報告、意見交換		
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編（株）みらい				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、課題レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 学外施設での実習に関わる授業であるので、原則として遅刻・欠席は認めない。また提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意をすること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育実践演習（Internship for Preschool Guidance）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋優子・大沢 裕・中村淳子・小野 和								
履 修 条 件	前提科目	保育実習科目が終了しているもの							
	そ の 他								
授業概要： 保育者としての使命感を持てるよう、保育に関わる課題を順次取り上げ、それに対する分析・考察・検討を行い、保育者しての総合的なものの見方・考え方を身につけさせる。またそれとともに、子どもや保護者を援助する方法を学習させる。必修科目と選、修科目の履修状況や、実習等を通しての学びを踏まえ、保育者として必要な知識・技能を修得したかを振り返り、確認させる。授業形式としては、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、現地調査を含む演習を基本とする。必要に応じて、ティーチングアシスタントを配置する。									
授業目標： 組織の一員として、保育に対する使命感や情熱を持ち、保育者としての職責や義務を自覚し、保護者に対しても良好な関係を築き、子どもと豊かな人間的交流を行える資質能力を養う。この科目は、確固たる使命感と熱意を持って保育を行うことのできる人材を育成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義概要について一履修カルテを元に説明一 保育に出る前に身に付けなければならないことを学ぶ					事前：シラバスを下読みする 事後：自分の目標を定める		講義 40分、グループ討議 20分、 個人目標 30分	
2	保育・教育者の使命感・責任感・愛などをグループ討議し、それぞれのグループで発表し合い、学びを深める					事前：配布資料の下読み 事後：グループ討議のまとめ		講義 20分、グループ討議 20分、 発表 50分	
3	保育者に求められるもの一対人関係能力一 厚木市子ども育成課委員との意見交換…厚木市の子育て政策について					事前：市の子育て政策の下調べ 事後：自分の意見をまとめる		講義 40分・意見交換 50分、 レポート提出	
4	乳幼児に対する共感的理解…子どもの発達課程を踏まえ、乳幼児に対する共感的理解を総合的に展開されることが重要					事前：指針等で発達課程の確認 事後：自他の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分	
5	生きる力を育む教育…保育所保育指針をもとに学ぶ					事前：指針で事前に調べる 事後：自分なりの意見を集約		講義 60分、グループ討議 30分	
6	クラス運営の手法…一人一人の活動の場面に応じて、その活動が豊かになるようにクラス運営を考える					事前：資料を事前に確認する 事後：自分の意見をまとめる		園長との意見交換 90分	
7	協同する経験…友達と関わる中で、互いの思いや考えを共有し、共通の目的の実現に向け、考えや工夫により充実感を得る					事前：指針を事前に下読みする 事後：指針で再確認する		講義 60分、グループ討議 30分	
8	特別支援教育…特別な配慮を必要とする乳幼児に対しての理解促進や、地域との連携を学ぶ					事前：指針や要領で確認する 事後：自分の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分	
9	指導計画一指導案作成一指導計画を作成し、実際に演じたり、発表したりして、互いに学びを深める					事前：自分なりの資料を探す 事後：他の人の意見もまとめる		模擬授業の作成 90分	
10	指導の具体化一模擬保育…具体的に模擬保育を行い、保育・教育者としての資質を深める					事前：模擬授業の事前準備 事後：模擬授業の反省をする		模擬授業の発表と反省 90分	
11	園の安全管理…施設・設備等の安全管理や災害発生時の対応体制や避難への備えなど具体的に学ぶ					事前：配布資料を基に予習 事後：自分なりのまとめをする		講義50分、意見交換 40分	
12	保育現場の実際一認定こども園見学・演習一 見学やDVDの観賞などから現場の実際を学ぶ					事前：配布資料で予習する 事後：自分なりのまとめをする		DVD 観賞 40分、レポート 30分、 意見交換 20分	
13	家庭との連携・保護者支援…保護者と連携して子どもの育ちを支える視点を学ぶ					事前：指針や要領で事前準備 事後：自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分	
14	保育現場に出る前に一こども・子育て新制度を踏まえて一 子ども・子育て新制度について具体的に学ぶ					事前：子育て新制度の事前確認 事後：自分なりの制度の確認		講義 50分、意見交換 40分	
15	これまでの学びの振り返り…保育者として必要な知識・技能を習得したかの振り返り、確認する					事前：振り返りの事前準備 事後：皆の意見を聞きまとめる		グループ討議と発表	
教本：テキスト 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』						参考文献： 授業時、適宜指示する。必要に応じてプリントを配布する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自己課題を持って予習・復習を行ってください。配布資料及び講義内容の整理を行ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 相 談 支 援 (Support for Childcare Consultaion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 初めに保育相談の意義と原則、保護者支援の基本を学ぶ。そのうえで、保育相談支援の実際について学び内容や方法を身に付ける。さらに、保育相談支援の行われている保育所、児童福祉施設等における保護者支援の実情についても事例等を通して学ぶ。授業では、ロールプレイ等を活用して技術等を実践的に学ぶ。									
授業目標： 保育相談についての意義と基本について理解をする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	保育の内容授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授 業 形 態	
1	保育相談支援とは何かについて考える。					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
2	保育相談支援の意義について考える。 (保護者への保育相談と保育の特性、保育者の専門性)					事前：P11～26予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
3	保育相談支援の基本1 (子どもの最善の利益と福祉の重視について考える。)					事前：P33～36予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
4	保育相談支援の基本2 (子どもの成長・発達の喜びの共有について考える。)					事前：P37～40予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
5	保育相談支援の基本3 (保護者の養育力の向上のための基本について考える。)					事前：P51～69予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
6	保育相談支援の基本4 (信頼関係を基本とした対人援助の原則について考える。)					事前：P71～84予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
7	保育相談支援の基本5 (地域資源の活用と関係機関との連携・協力について考える。)					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
8	保育相談支援の実際1 (保育と保護者支援について考える。)					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
9	保育相談支援の実際2 (保護者支援の内容・方法・技術について考える。)					事前：P11～26予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
10	保育相談支援の実際3 (保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンスについて考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
11	児童福祉施設における保育相談支援1 (保育所における支援の実際について考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
12	児童福祉施設における保育相談支援2 (特別な支援を必要とする家庭への支援について考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
13	児童福祉施設における保育相談支援 (要保育児童の家庭への支援)について考える。					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
14	児童福祉施設における保育相談支援1 (障害児施設、母子生活支援等における支援について考える。)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
15	保育相談支援の現状と課題について考える。					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復習		講義(60分)・ グループ討議(30分)	
教本： 倉石哲也／大竹智編著『相談援助』ミネルヴァ書房									
参考文献： 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 現在社会においては、少子高齢化、核家族化などを背景に、子どもの虐待や育児不安の増加など多くの課題があります。このような状況に対応していくためには、保育者の相談支援力がより一層求められています。学習にあたっては、自学習課題を設定するなど主体的な学びを期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	保育内容（環境）（Early Childhood Education（Environment））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野末 晃秀								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 身近な環境や事物に好奇心と探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れることで豊かな発達を遂げていく子どもの能力とそのための環境構成について学ぶ。子どもが能力を発揮する環境や事象、例えば、生物や自然現象、遊具・数量・図形に実際に触れ、各々の特性について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。また、視聴覚教材の活用や模擬授業をビデオで記録するなど視聴覚機器等を使い学習効果を高める。									
授業目標： 領域「環境」のねらい、内容について理解を深めるとともに、幼児の発達段階に応じた環境の意義について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定した指導計画を作成することにより実践力を身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	保育内容「環境」の意義について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領の5領域ねらいと内容について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
3	好奇心や思考力の芽生え、探究心を育てる指導（視聴覚教材）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
4	人的環境としての友だち・保育者と物的環境としての園具・遊具・素材について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
5	自然環境としての動植物、日常生活の中での興味や関心、文字や数量の体験について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
6	幼稚園教育における評価と反省について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との接続について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(60分)・グループ(30分)	
8	保育の構想（長期の計画と短期の計画）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
9	ねらい及び内容と環境構成について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
10	幼児の活動を豊かにするための教材研究（幼児と教材の関わり）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
11	季節にあった遊び、地域の自然を利用した遊びの構想（幼児理解に基づく指導計画の作成）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
12	模擬授業の構想（準備、役割、教材の準備）について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
13	模擬授業の実施					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
14	模擬授業の反省と評価、改善（環境構成、保育者の援助、教材等は適切であったか）・第13回の模擬授業の相互評価を行う。（模擬保育記録ビデオの活用）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義(20分)・演習(70分)	
15	保育内容「環境」から見た実践的課題について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：ノート整理・復習		講義(20分)・演習(70分)	
教本：谷田貝公昭 監修、大沢裕・野末晃秀 編著、コンパクト版 保育内容シリーズ③『環境』 一藝社（ISBN：9784863591523） 参考文献：『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省・厚生労働省									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（60％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 （ 健 康 ） (Early Childhood Education (Health))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 リヨ								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	特 に な し							
授 業 概 要 ： 乳幼児の基本的な生活習慣の形成、身体機能や運動能力、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、乳幼児が健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。									
授 業 目 標 ： ①乳幼児の身体機能や運動能力の発達について理解する。 ②望ましい生活リズムや基本的な生活習慣を形成するための保育者の役割について理解する。 ③進んで体を動かす子どもを育てるための保育者の役割について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）				事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）			授 業 形 態	
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明、健康とは何か）				事前：シラバスの確認 事後：健康とは何かの復習			講義 50分、討論 20分、 発表 20分	
2	領域「健康」について（ねらいと内容）				事前：領域「健康」を読んでおく 事後：領域「健康」の復習			講義 70分、 グループ討議 20分	
3	子どもの心と体の健康（幼児期の健康な生活とは）				事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習			講義 90分	
4	子どもの身体の発達と運動能力 ①子どもの身体の発達				事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
5	子どもの身体の発達と運動能力 ②運動能力と動きの獲得				事前：運動の能力について読んでおく 事後：運動能力の復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
6	生活習慣の獲得（0～2歳児）				事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
7	生活習慣の獲得（3～5歳児）				事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
8	保育の場における食育指導				事前：食に関する体験・活動を振り返る 事後：食育だよりの作成			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
9	遊びの意義と変遷				事前：遊びの定義について調べる 事後：遊びについての復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
10	運動遊びの実際				事前：運動遊びの体験を振り返る 事後：遊びと留意点の復習			講義 50分、演習 40分	
11	安全教育とその指導				事前：安全に関する部分を読んでおく 事後：安全に関する留意点の復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
12	健康をテーマとした教材研究				事前：演習で扱う教材を探しておく 事後：教材づくり			教材研究 90分	
13	健康をテーマとした指導案の完成				事前：教材づくり 事後：演習（模擬保育）への準備			指導案作成 90分	
14	健康をテーマとした教材発表（模擬保育）				事前：展開について細案を作成する 事後：実施後の振り返り			発表 70分、討論 20分	
15	保育者の役割と援助（乳幼児の育ちの理解）				事前：保育者の役割について読んでおく 事後：保育者としての自己を意識する			講義 60分、発表 30分	
教 本 ： 特になし。適宜プリントを配布する。					参 考 文 献 ： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（いずれも最新版）。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 ： 課題への取り組み（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス ： 講義と演習科目である。主体的かつ積極的に参加する意欲が求められる。グループワークあり。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育内容（言葉）（Early Childhood Education（Language））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 金 悦 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 子どもの発達と特徴、言葉の本質と機能、言葉の障害について理解し、保育者ついでの話し方・聴き方、絵本などの児童文化財を教材として用いる方法を実践的に学修する。子ども達の言葉の発達に応じて、言葉の持つ意味やイメージ、感情をくみ取る力を支援することは保育者にとって必要な専門性である。言葉でやりとりすることの楽しさや大切さを子どもに伝えるための指導力・実践力を修得できるようにする。									
授業目標： 子どもが言葉を獲得する過程を知り、保育者として言葉に対する感性を豊かにすると共に、保育者の役割を理解し、子どもの言葉を育てるための指導力と実践力を身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス 言葉とは何か、言葉の獲得の意味について考える。				事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
2	保育内容に示されている領域「言葉」について理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
3	乳幼児の言葉の発達 子どもの言葉獲得の過程を理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
4	言葉を育てる環境 生活や遊びの中で言葉を豊かにしていくために必要な環境や保育者の援助について考える。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
5	言葉の機能について考える 言葉には様々な機能や役割があることを学ぶ。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、ペアワーク 30分	
6	話し言葉と書き言葉 遊びや生活の中にある文字の有用性や必要性を考え、その援助について理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
7	小学校との連携 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領のつながりを理解する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
8	児童文化財の活用 様々な児童文化財に触れ、その活用について実践的に学ぶ。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
9	発達と絵本 絵本の読み聞かせについてこれまでの経験を踏まえて学んでいく。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
10	教材研究 ① 紙芝居について				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
11	教材研究 ② ペーパーサートの作成				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 10分、グループワーク 80分	
12	模擬保育 自作の教材を用いて模擬保育を行い検討する。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 10分、グループワーク 80分	
13	指導案の作成 前時の模擬保育を振り返り指導案を作成する、PDCAを考えながら指導上の留意点に気づけるようにする。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
14	言葉を育てる言葉遊び 実際の体験を通して理論と実践の一体的に学ぶ。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 20分、グループワーク 70分	
15	特別に支援を必要とする子どもの援助 保育者の役割と援助について学んだことをまとめていく。				事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分	
教本： 必要に応じて資料を配付します。					参考文献： 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領				
成績評価の方法、評価基準： 授業内発表等（40％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 演習に積極的に参加することで、実践力を身につけてほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育内容（人間関係）（Early Childhood Education（Human Relations））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 子ども同士の関わり、保育者とかかわり等、社会性を発達させる上で欠かせない人間関係のあり方全体を理解することを目的とする。子どもたちの人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ばせる。子どもの自主性・自立性の尊重とその促し方、および集団生活との関わり、ごっこ遊びと社会性との関連、社会性涵養の立場から各種行事や園外保育の意義を理解させる。また家庭・社会における人間関係、その中で培われる社会性についても取り上げる。 講義の他に、実践例を踏まえた課題研究発表、グループ討論、ロールプレイングを交えて授業を展開する。									
授業目標： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、領域としての「人間関係」の目的、ねらい、内容、内容の取り扱いを理解し、子どもの社会性を育てるための視野を広げる。子どもの遊びと生活を、人間関係の観点で捉える眼を養う。人との関わりを育むために必要とされる知識や技能について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				◎			○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	教育・保育の基本と領域「人間関係」					事前： 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
2	領域「人間関係」のねらい及び内容					事前：福祉の考えをまとめる 事後：ノートを読み返す		講義 90 分	
3	人間関係の発展の道筋					事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す		グループ討論 60 分、 発表 30 分	
4	0 歳児から 2 歳児の人間関係ーその指導法と評価					事前：発展について復習する 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
5	3 歳児から 5 歳児の人間関係ーその指導法と評価					事前：2 歳児までの人間関係を復習する 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
6	愛着形成の理論と実際					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 60 分、 グループ討論 30 分	
7	自己主張と自己抑制ー道徳性の芽生えを育むために					事前：素質について考えておく 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
8	コミュニケーション能力の育成					事前：家庭の育ちを考える 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
9	領域「人間関係」の教材作成と情報機器の活用					事前：PC の操作に慣れておく 事後：教材を作ってみる		演習 90 分	
10	領域「人間関係」の指導案作成					事前：指導案作成の手順を確認する 事後：作成した指導案を見直す		演習 90 分	
11	領域「人間関係」の模擬授業（ロールプレイング）					事前：指導案を読み込む 事後：模擬保育の反省をする		演習 90 分	
12	人とかかわりが難しい子どもへの支援					事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す		演習 90 分	
13	異年齢児、地域社会との関わり、自然環境の中で育つ人間関係の支援					事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す		演習 60 分、 グループ討論 30 分	
14	領域「人間関係」と他の領域との関連					事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す		演習 60 分、 グループ討論 30 分	
15	幼小連携の課題ー人間関係育成の視点から					事前：時事問題の記事を読む 事後：		講義 90 分	
教本：『コンパクト版保育内容シリーズ・人間関係』高橋弥生・福田真奈編著（一藝社） 参考文献：「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）」（チャイルド社）									
成績評価の方法、評価基準： 領域としての「人間関係」のねらい、内容また社会性を育てるための知識・技能について理解ができているか、また子どもの遊びと生活を人間関係の視点から捉えることができるかを複数回のレポート提出及び筆記試験によって総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： 社会性の育ちに対して、新聞記事を読んだり、インターネットで調べる習慣を身につけること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	保育内容（表現）（Early Childhood Education（Expression））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 金 悦 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている領域「表現」の内容について、乳幼児の発達、保育者の役割や援助、環境などの観点から具体的に理解する。造形、音楽、言葉、身体などでの様々な表現のあり方を学び、保育者としての感性を磨きながら実践力を身につけていく。ピアノと歌唱の技術を向上させるため練習と発表の機会を設ける。									
授業目標： 表現の視点から乳幼児の発達の過程を理解し、保育者としての指導力と実践力を身に付ける。感性を豊かにし、表現に関する教材活用のための理論と実践を一体的に行える力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など					事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
2	表現の楽しさを体験する（言語表現・音楽表現・造形表現・身体表現）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 実技演習 60分	
3	乳幼児の発達と表現について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらい・内容について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
5	総合的表現活動としての劇遊びについて					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義・DVD 視聴60分、 グループワーク30分	
6	音楽表現の創作 ①（楽器の扱い方、合奏の楽しみ）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
7	音楽表現の創作 ②（合奏譜を作り、練習する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 グループワーク 80分	
8	音楽表現の創作 ③（グループごとに発表する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表 70分	
9	乳幼児の表現力を育むための環境と援助について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
10	領域表現と行事について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
11	身体表現の創作 ①（グループで身体表現を創作する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 グループワーク 70分	
12	身体表現の創作 ②（幼児への指導法を工夫する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 グループワーク 80分	
13	身体表現の創作 ③（発表と振り返り）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表 70分	
14	指導案の作成について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 40分、 グループワーク 50分	
15	学修のまとめ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
教本： 必要に応じて資料を配付します。					参考文献： 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領				
成績評価の方法、評価基準： 授業内発表等（40%）、レポート（30%）、小テスト（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回の授業の中で演習を通して知識と技能を身につけて欲しいと考えています。欠席しないようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	保育内容総論（Overview of Early Childhood Education）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 「幼稚園教育要領」などをふまえた幼稚園や保育所における指導の基本及び教育課程、長期の指導計画、短期の指導計画、評価に至る指導計画の作成について理解することにより、発達や学びの連続性を踏まえた総合的な実践力を身に付ける。									
授業目標： 環境を通して学ぶ教育の意義、各領域のねらい、小学校教育との接続について、事例を基に話し合い理解を深める。また、幼児の発達や学びの過程を理解するために、指導計画等の資料収集を行いそれらの比較検討することにより環境構成や教師の支援、評価手法について学ぶ。また、実際に指導計画を作成し模擬保育を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	教育環境を通して行う教育の意義について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理念、ねらいと内容について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
3	保育所・幼稚園・こども園における5領域のねらい、内容について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
4	一人一人の特性に応じた指導の在り方について実践事例を通して学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
5	特別な支援を必要とする子どもへの理解と援助方法及びクラス運営について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
6	質の高い教育・保育の実現するカリキュラム・マネジメント（P・D・C・A）について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
7	幼児の学びの連続性や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、小学校との接続について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
8	教育課程と全体的な計画、保健計画、食育計画の関連性について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
9	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境構成の在り方について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
10	視聴覚機器及び情報機器等の活用した教育実践の在り方について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
11	模擬保育をグループでデザインする。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
12	模擬保育の計画（幼児理解・ねらい・内容・環境構成・保育者の支援・評価）をグループで話し合い作成する。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
13	模擬保育の実施と反省評価					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		模擬保育の実施 (90分)	
14	実際の保育の場における実践例と、その解説					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
15	これからの教育・保育の在り方について考える。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
教本： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 谷田貝公昭監修 大沢裕・高橋弥生編著、『幼児教育方法論』一藝社 (ISBN 未定)					参考文献： 文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録』チャイルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（60％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分の将来の姿を考え、保育に夢と希望を持ちながら、授業にのぞむこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保育の心理学Ⅰ（Psychology of ChildcareⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講座では、保育実践と関係の深い心理学の基礎的理論を学び、子どもが人とのかかわりを通して発達していくことを理解していく。また、人生における初期経験が生涯発達に大きな影響を与えることを理解し、子どもの発達援助に保育者がどのようにかかわるべきかを考察していく。									
授業目標： 1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 3. 子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	保育と心理学―(1) 子どもの発達を理解することの意義					事前：テキストの予習(子どもの発達) 事後：復習(子どもの発達のまとめ)		講義 70分 振り返り 20分	
2	保育と心理学―(2) 保育実践の評価と心理学					事前：テキストの予習(評価他) 事後：復習(保育実践の評価のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
3	保育と心理学―(3) 発達観、子ども観と保育観					事前：テキストの予習(発達観) 事後：復習(子ども観、発達観のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
4	子どもの発達理解―(1) 子どもの発達と環境					事前：テキストの予習(発達と環境) 事後：復習(環境と発達のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
5	子どもの発達理解―(2) 感情と自己の発達					事前：テキストの予習(感情と発達) 事後：復習(自己発達と感情とのまとめ)		講義 60分 討議 30分	
6	子どもの発達理解―(3) 身体的機能と運動機能の発達					事前：テキストの予習(身体・運動機能) 事後：復習(身体・運動機能の発達のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
7	子どもの発達理解―(4) 知覚と認知の発達					事前：テキストの予習(知覚と認知) 事後：復習(知覚と認知のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
8	子どもの発達理解―(5) 言葉の発達と社会性					事前：テキストの予習(言語・社会性) 事後：復習(言語・社会性の発達のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
9	人とのかかわりと子どもの発達―(1) 人とのかかわりあいと子どもの発達					事前：テキストの予習(人間関係) 事後：復習(人間関係と発達のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
10	人とのかかわりと子どもの発達―(2) 思いやりの心と道徳性の発達					事前：テキストの予習(道徳性) 事後：復習(道徳性の発達、まとめ)		講義 60分 討議 30分	
11	自ら学ぶ心のそだち―(1) 学びのさまざま（学習理論）					事前：テキストの予習(学習理論) 事後：復習(学習理論のまとめ)		講義 60分 討議 30分	
12	自ら学ぶ心のそだち―(2) 学びの意欲（動機づけ）					事前：テキストの予習(動機づけ) 事後：復習(動機づけのまとめ)		講義 60分 討議 30分	
13	自ら学ぶ心のそだち―(3) 人間関係のなかでの学び					事前：テキストの予習(人間関係) 事後：復習(人間関係の中での学びのまとめ)		講義 60分 討議 30分	
14	生涯発達のプロセスと援助―(1) 生涯発達という考え方					事前：テキストの予習(生涯発達) 事後：復習(生涯発達についてまとめる)		講義 60分 討議 30分	
15	生涯発達のプロセスと援助―(2) 生涯発達の考え方に基づく援助及び各時期の発達の特徴と援助					事前：テキストの予習(各時期の発達) 事後：復習(生涯を通じてのこの時期の発達のまとめ)		講義 70分 振り返り 20分	
教本： 「実践につながる新しい保育の心理学」ミネルヴァ書房 ￥2,200					参考文献： 岩井邦夫／高橋道子／高橋義信／堀内ゆかり共著「グラフィック乳幼児心理学」サイエンス社 ￥2,400				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 評価基準：授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単位によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	保育の心理学Ⅱ（Psychology of ChildcareⅡ）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	中村 淳子									
履 修 条 件	前提科目	心理学の基礎Ⅰ								
	そ の 他	なし								
授業概要： 心理学の基礎Ⅰで学んだ保育実践と関係の深い基礎的理論を踏まえて、保育者が保育現場で直面する具体的援助について学び、子ども理解をさらに深めていきます。その上で、実際の保育事例に基づく対応方法をグループワークやカンファレンスを通して体験的に学習していきます。また、子どもや保護者支援におけるカウンセリングの方法を学び、理論と保育実践との関連を考え、専門家や他機関と連携して協働できる実力ある保育者を目指す演習としたいと思います。										
授業目標： 1. 子どもの心身の発達と環境について学び、保育を実践する上での留意点について考える。 2. 子どもが生活や遊びを通して学ぶ過程を理解し、それを基礎として生涯にわたる“生きる力”について考える。 3. 保育における子どもの発達援助について学び、実際の支援方法について考える。 4. 現代社会における子どもの発達と、これからの保育の課題や展望について考える。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
				◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	1. 子どもの発達と保育実践ー (1) 子ども理解における発達の把握					事前：なし 事後：子どもの発達理解についてまとめる		講義 60分 グループワーク 30分		
2	(2) 個人差や発達課程に応じた保育					事前：個人差について調べる 事後：個人差・発達過程のまとめ		講義 60分 グループワーク 30分		
3	(3) 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 (4) 環境としての保育者と子どもの発達					事前：身体感覚について調べる 事後：テキスト(3)(4)のまとめ		講義 60分 グループワーク 30分		
4	(5) 子どもの相互のかかわりと関係づくり (6) 自己主張と自己統制					事前：子どもの人間関係を調べる 事後：テキスト(5)(6)のまとめ		講義 60分 グループワーク 30分		
5	(7) 子ども集団と保育の環境					事前：子ども集団と環境を調べる 事後：保育環境のまとめ		講義 30分 グループワーク 60分		
6	2. 生活や遊びをととした学びの過程ー (1) 子どもの生活と学び					事前：遊びについて調べる 事後：テキスト(1)のまとめ		講義 20分 グループワーク 70分		
7	(2) 子どもの遊びと学び					事前：遊びを通した学びを考える 事後：テキスト(2)のまとめ		プレゼンテーション 80分 振り返り 10分		
8	(3) 生涯にわたる生きる力の基礎を培う					事前：生きる力とは何か考える 事後：テキスト(3)のまとめ		講義 70分 振り返り 20分		
9	3. 保育における発達援助ー (1) 基本的生活習慣の獲得と発達援助					事前：基本的生活習慣を調べる 事後：テキスト(1)のまとめ		講義 70分 振り返り 20分		
10	(2) 自己の主体性の形成と発達援助 (3) 発達の課題に応じた援助やかかわり					事前：自己主体性について考える 事後：テキスト(2)(3)のまとめ		講義 70分 振り返り 20分		
11	(4) 発達や学びの連続性と就学への支援					事前：就学支援について調べる 事後：テキスト(4)のまとめ		講義 30分 討議 60分		
12	(5) 発達援助における協働					事前：協働とは何か調べる 事後：テキスト(5)のまとめ		講義 30分 討議 60分		
13	4. 現代社会における子どもの発達と保育の課題ー (1) 乳幼児をもつ家族の現状					事前：現代の子ども発達について調べる 事後：家族の現状のまとめ		事例検討 討議 90分		
14	(2) 子どもの発達に影響する要因 (3) 保育所・幼稚園における子育て支援					事前：子育て支援について調べる 事後：テキスト(2)(3)のまとめ		講義 60分 振り返り 30分		
15	(4) 親子を支えるカウンセリング					事前：カウンセリングを調べる 事後：テキスト(4)のまとめ		講義 70分 グループワーク 20分		
教本： 「保育士養成課程ー保育の心理学Ⅱ」 小田豊監修、丹羽さかの編著 光生館 ￥1,900										参考文献： 「子どもの発達心理学」 高橋道子／藤崎真知代／仲真紀子／野田幸江著 新曜社 ￥1,900
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 保育の心理学は、平成22年から新しく保育士養成課程で定められた科目です。保育者として最低限マスターしておきたい実践に即した心理学の科目ですから、授業で学ぶ前にテキストに目を通すなどして理解を深めるよう心掛けてください。また、グループワークやケースカンファレンスなどの演習では、実践力を身に着けるよう積極的に参加してください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。 水曜日の昼休み										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	法学 (Law)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、法と社会規範の関係とその差異から出発し、法システムの機能、法の強制力、道徳の共通性と違い、法と正義を概観し、日本の裁判員制度、法の効力など扱います。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 基礎法学、実定法、国際法の基礎を中心に法の基本的な知識を習得し、法学的視点と法学の論理を身につけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	法とは何か(1) 法の存在形式				事前：法源とは何かについて調べる。 事後：法の存在形式をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	法とは何か(2) 法律と社会規範				事前：法と社会規範の違いを調べる。 事後：法と社会規範の違いをまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	法システムの機能(1) 法の規範的機能				事前：法の規範的機能とは何かを調べる。 事後：法の規範的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	法システムの機能(2) 法の社会的機能				事前：法の社会的機能とはどのようなものを調べる。 事後：法の社会的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	法と強制(1) 法と強制／犯罪と刑罰				事前：法と強制、犯罪と刑罰について調べる。 事後：法と強制、犯罪と刑罰をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	法と強制(2) 刑罰の性質とその正当化				事前：刑罰の性質とその正当化について調べる。 事後：法的強制の多様化と変貌をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	法と道徳(1) 法と道徳／自然法論と法実証主義				事前：法と道徳の関係を考える。 事後：自然法論と法実証主義をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	法と道徳(2) 法による道徳の強制				事前：法による道徳の強制は妥当か考える。 事後：パターンリズムと自己決定権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	法と正義(1) 法の目的と正義				事前：法の目的と正義を考える。 事後：正義観念と法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	法と正義(2) 現代正義論の動向				事前：正義論について調べる。 事後：現代正義論の動向についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	日本の裁判員制度				事前：裁判員制度を調べる。 事後：司法への国民参加をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	法の効力(1) 法の形式的効力—段階的構一				事前：法の効力に必要なことは何かを考える。 事後：法の形式的効力（段階的構造）をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	法の効力(2) 憲法と条約／法の効力の範囲				事前：憲法と条約の関係を調べる。 事後：法の効力の範囲をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	効力による法の分類／まとめ				事前：一般法と特別法の区別を調べる。 事後：強行法と任意法の区別をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	法学（Law）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高橋 基樹								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「法を学ぶ」とは何か。本科目では法と社会とのかかわりに注目しながら、「法とは何か」を追求する。具体的には、犯罪に関する法律、日常生活の売買に関する法律等をめぐる裁判事例を取り上げ、法が私たちの毎日の生活と深く結びついていることを認識してもらい、そうした事例との関係から「法とは何か」という論点を多角的に検討することを目的とする。									
授業目標： 1．法学に対する基礎的な知識を修得し、法とは何かを考察すること 2．法と社会との関係性から、日常生活における法の役割を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法とは何か（法学とはこういった学問か）					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	裁判制度と法					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
3	国家と法との関係①（立憲主義と統治機構）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
4	国家と法との関係②（国民主権の原理）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
5	国家と法との関係③（民主主義と選挙制度）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
6	人権保障と法					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
7	犯罪・刑罰と法①（犯罪予防と適正手続）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
8	犯罪・刑罰と法②（犯罪と刑罰成立の方程式）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
9	犯罪・刑罰と法③（刑罰のあり方と死刑制度）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
10	裁判員制度と法					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
11	契約と法①（私的自治の原則）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
12	契約と法②（法における「人」の位置づけ）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
13	契約と法③（売買等の取引契約と法）					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
14	家族制度と法					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
15	相続制度と法					事前：配布資料の予習 事後：講義内容の復習		講義	
教本： 使用しない（配布資料に基づく講義を予定）					参考文献： 講義中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・レポート提出等の通常講義回に基づいた平常点（30％）、定期試験（70％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本科目で取り上げるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考える。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもつことを期待する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法の性格と役割 (Introduction to Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上地 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 法学では、実定法の解釈・適用のあり方を探求することを目的とする法解釈学が重要な部分を占める。この講義では、法の性格と法が現実の社会の中でどのような役割を果たしているのか(あるいはいないか)、法と社会が互いにどのように影響を及ぼしあっているかという問題意識を持ってもらうことを目的としている。									
授業目標： 法社会学的な法の捉え方を学ぶことで、法と法にまつわる諸現象に対する分析能力を高め、法学的視点と法学の論理を身につけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 80分 質疑応答 10分	
2	法システムと法過程(1) 法をどのように捉えるか				事前：法とは何かを調べる 事後：法の捉え方をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
3	法システムと法過程(2) 法システムと法過程				事前：システムの語義を調べる 事後：法システムと法過程についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
4	法文化(1) 法文化の語義				事前：文化とは何かを調べる 事後：文化論をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
5	法文化(2) 法文化の理論				事前：法文化とは何かを考える 事後：法文化の理論をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
6	法文化(3) 日本の法文化論				事前：日本の法文化を調べる 事後：日本の法文化論をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
7	法文化(4) 日本人の法観念				事前：法観念とは何かを調べる 事後：日本人の法観念について意見をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
8	日本社会と法(1) 争いの少ない社会? 裁判を使わない社会?				事前：日本における法使用を調べる 事後：なぜ日本では裁判が少ないかまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
9	日本社会と法(2) 制度からのアプローチ				事前：日本の司法制度について調べる 事後：日本の司法制度の問題についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
10	日本社会と法(3) 法律家の国際比較： 法曹人口の国際比較				事前：法律家の役割を調べる 事後：なし			講義 80分 質疑応答 10分	
11	日本社会と法(4) 法律家の国際比較： 日本のパラリーガル				事前：隣接法律専門職について調べる 事後：日本の隣接法律専門職についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
12	裁判員制度：司法制度改革審議会の設置と裁判員制度				事前：裁判員制度について調べる 事後：国民の司法参加についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
13	日本の法曹養成制度改革(1) 法曹養成制度改革の背景				事前：構造改革について調べる 事後：司法制度改革の目的をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
14	日本の法曹養成制度改革(2) 日本型ロースクール制度				事前：法科大学院について調べる 事後：日本の法科大学院の課題についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分	
15	まとめ				事前：質疑事項のまとめ 事後：すべての復習			質疑応答 30分 ディスカッション 60分	
教本： とくになし (資料を配布します)。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常の社会の問題を考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅰ（BookkeepingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授業目標： 複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記原理Ⅰ（BookkeepingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記原理Ⅰは、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授業目標： 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記と財務諸表（簿記の基礎知識） 簿記の基礎となる知識について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	仕訳と勘定への転記（総勘定元帳） 総勘定元帳への転記について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	決算1（試算表の作成） 試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	決算2（財務諸表の作成） 財務諸表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	問題演習1（決算まで） 第5回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
7	現金（現金出納帳・現金過不足） 現金に係る処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	当座預金（当座預金出納帳・当座借越） 当座預金に係る処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	小口現金とその他の預金（小口現金出納帳） 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	問題演習2（現金預金） 第9回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	商品売買取引1（分記法と3分法） 分記法と3分法の仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	商品売買取引2（補助簿・売上原価計算） 商品に係る補助簿と売上原価計算について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
13	売上債権と仕入債務（掛けと手付金） 掛けと手付金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	売上債権と仕入債務2（手形） 手形の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
15	問題演習3（商品売買取引） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅱ（BookkeepingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰを必ず履修すること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授業目標： 複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金・預金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	商品売買Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	商品売買Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	有価証券の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	手形取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	その他の債券・債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	固定資産と減価償却					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	純資産・税金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算の手続きⅠ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	決算の手続きⅡ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	決算の手続きⅢ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	決算の手続きⅣ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本：参考文献：									
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積み重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅱ（BookkeepingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記原理Ⅱでは、簿記原理Ⅰから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記原理Ⅱは、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。また、簿記原理Ⅰと連続する科目であるため、簿記原理Ⅰを履修している必要がある。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授業目標： 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記原理Ⅰの復習1（簿記の基礎） 簿記原理Ⅰの簿記に関する基礎について復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 50分 問題演習 40分	
2	簿記原理Ⅰの復習2（仕訳の問題演習） 簿記原理Ⅰで扱った論点を問題演習をとおして復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 40分 問題演習 50分	
3	貸倒引当金 貸倒引当金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
4	掛・手形以外の債権・債務 掛と手形以外の債権・債務について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
5	問題演習1（債権債務） 第4回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
6	有形固定資産と減価償却 有形固定資産と減価償却について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
7	純資産と決算振替仕訳 純資産と決算振替仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
8	収益・費用と経過勘定項目 経過勘定項目を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
9	税金（法人税等、消費税） 法人税等や消費税について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
10	伝票と仕訳 伝票の起票を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
11	問題演習2（各論） 第10回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
12	決算1（試算表の作成） 決算のうち、試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算2（精算表の作成） 決算のうち、精算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
14	決算3（財務諸表の作成） 決算のうち、財務諸表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習3（決算） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
参考文献： 適宜、指示する。									
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記論Ⅰ (BookkeepingⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授業目標： 複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記論 I (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記論 I は、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。以下の授業内容は予定であり、必要に応じて変更する場合がある。									
授業目標： 日商簿記 3 級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記と財務諸表（簿記の基礎知識） 簿記の基礎となる知識について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	仕訳と勘定への転記（総勘定元帳） 総勘定元帳への転記について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	決算 1（試算表の作成） 試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	決算 2（財務諸表の作成） 財務諸表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	問題演習 1（決算まで） 第 5 回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
7	現金（現金出納帳・現金過不足） 現金に係る処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	当座預金（当座預金出納帳・当座借越） 当座預金に係る処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	小口現金とその他の預金（小口現金出納帳） 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	問題演習 2（現金預金） 第 9 回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	商品売買取引 1（分記法と 3 分法） 分記法と 3 分法の仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	商品売買取引 2（補助簿・売上原価計算） 商品に係る補助簿と売上原価計算について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
13	売上債権と仕入債務（掛けと手付金） 掛けと手付金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	売上債権と仕入債務 2（手形） 手形の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
15	問題演習 3（商品売買取引） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義 3 級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記論Ⅱ（Bookkeeping Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰを必ず履修すること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授業目標： 複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金・預金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	商品売買 Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	商品売買 Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	有価証券の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	手形取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	その他の債券・債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	固定資産と減価償却					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	純資産・税金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算の手続き Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	決算の手続き Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	決算の手続き Ⅲ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	決算の手続き Ⅳ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本：参考文献： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記論Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記論Ⅱは、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。また、簿記論Ⅰと連続する科目であるため、簿記論Ⅰを履修している必要がある。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授業目標： 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	簿記論Ⅰの復習1（簿記の基礎） 簿記論Ⅰの簿記に関する基礎について復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 50分 問題演習 40分	
2	簿記論Ⅰの復習2（仕訳の問題演習） 簿記論Ⅰで扱った論点を問題演習をとおして復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 40分 問題演習 50分	
3	貸倒引当金 貸倒引当金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
4	掛・手形以外の債権・債務 掛と手形以外の債権・債務について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
5	問題演習1（債権債務） 第4回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
6	有形固定資産と減価償却 有形固定資産と減価償却について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
7	純資産と決算振替仕訳 純資産と決算振替仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
8	収益・費用と経過勘定項目 経過勘定項目を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
9	税金（法人税等、消費税） 法人税等や消費税について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
10	伝票と仕訳 伝票の起票を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
11	問題演習2（各論） 第10回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
12	決算1（試算表の作成） 決算のうち、試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算2（精算表の作成） 決算のうち、精算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
14	決算3（財務諸表の作成） 決算のうち、財務諸表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習3（決算） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
教本： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	簿記論Ⅲ（中級）（Bookkeeping Ⅲ (Intermediate)）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記論Ⅲ（中級）では、簿記論Ⅰ・Ⅱに続き、簿記の基本的な知識を理解したうえで、日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術について授業を行う。 そのため、簿記論Ⅰ・Ⅱを履修している必要がある。									
授業目標： 日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記一巡の手続きの復習 簿記論Ⅰ・Ⅱの復習を問題演習をとおして行う。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	財務諸表の特徴 財務諸表の種類と特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
3	現金預金 基本的な仕訳を含め、銀行勘定調整表について解説する。					事前：教科書104～117頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
4	手形にかかる処理 手形の裏書・割引、更改、不渡り等について解説する。					事前：教科書88～103頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
5	問題演習 1 第4回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	有価証券にかかる処理 有価証券の分類、評価等について解説する。					事前：教科書182～206頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
7	債務の保証と保険金の処理 債務の保証と保険金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
8	商品売買（3分法）と棚卸減耗損・商品評価損 棚卸減耗損と商品評価損について解説する。					事前：教科書64～86頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
9	固定資産にかかる処理 固定資産の取得、売却等、減価償却について解説する。					事前：教科書118～153頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
10	問題演習 2 第9回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	引当金にかかる処理 引当金の種類と設定等の処理について解説する。					事前：教科書208～220頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
12	収益・費用にかかる処理 収益と費用の種類と収益認識基準について解説する。					事前：教科書222～231頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
13	純資産にかかる処理 純資産の種類と準備金等の処理について解説する。					事前：教科書4～40頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
14	税金の処理 法人税と消費税の処理について解説する。					事前：教科書42～63頁 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
15	問題演習 3 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記』、TAC。 渡辺裕巨 他『検定簿記ワークブック2級商業簿記』、中央経済社。									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記論Ⅳ（中級）（Bookkeeping Ⅳ (Intermediate)）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅲ（中級）							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記論Ⅳ（中級）では、簿記論Ⅰ・Ⅱに続き、簿記の基本的な知識を理解したうえで、日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術について授業を行う。 そのため、簿記論Ⅰ・Ⅱを履修している必要がある。また、中級簿記Ⅰのつづきの科目であるため、簿記論Ⅲ（中級）も履修している必要がある。									
授業目標： 日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	リース会計 リース取引の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
2	外貨建取引 外貨建取引の換算と二取引基準等について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
3	税効果会計 課税所得と税効果会計について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
4	問題演習 1（個別論点） 第3回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
5	決算 1（決算整理後残高試算表の作成） 決算整理後残高試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
6	決算 2（精算表の作成） 第5回につづいて、精算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
7	決算 3（財務諸表の作成） 第5回・第6回につづいて、財務諸表の作成を解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
8	問題演習 2（決算） 第7回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
9	本支店会計 1（基礎） 決算までの処理を理解したうえで、本支店会計を解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
10	本支店会計 2（応用） 第9回につづいて、本支店会計の理解を深める。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
11	問題演習 3（本支店会計） 第10回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
12	連結会計 1（開始仕訳） 連結財務諸表の作成に必要な開始仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
13	連結会計 2（連結精算表の作成） 開始仕訳を理解したうえで、連結精算表を作成する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
14	連結会計 3（連結財務諸表の作成） 第12回につづいて、連結財務諸表を作成する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 45分 問題演習 45分	
15	問題演習 4（連結会計） 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本：参考文献：									
滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記』、TAC。 渡辺裕巨 他『検定簿記ワークブック2級商業簿記』、中央経済社。									
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ホスピタリティとは何かを理解することにより、理論的な手法により自身を見直し対人関係をよりよくするための実践的な講義である。									
授業目標： ①ホスピタリティのあり方を理解する ②自身を今一度理解する ③人間関係のあり方を理解する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	(1)ホスピタリティの体系： ①ホスピタリティ、サービス、おもてなしなど関連用語の関係性について理解する。 ②ホスピタリティの語源等からホスピタリティの意味を学修する。					事前：ホスピタリティに関する資料収集 事後：自身でのホスピタリティの体系化		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
3～6	(2)自分を知る： ①自身のタイプについての自己診断を行う。 ②自分の資質を理解することについて学修する。 ③自身の社会における役割（常識・マナー）について学修する。 ④慈悲や喜怒哀楽について学修する。 ⑤自己開示・自己発見など自分を理解する方法について学修する。 ⑥自分の魅力を引き出す方法について学修する。 ⑦自分のホスピタリティマインドを鍛える方法について学修する。					事前：自身の性格と向き合う 事後：自身の性格の長所・短所について理解し自身のホスピタリティマインドのあり方について熟慮する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
7～10	(3)相手を理解する： ①相手の特性・個性について学修する。 ②相手を受け止める自分について学修する。 ③相手の多様性への対応について学修する（ユニバーサルデザイン）。					事前：友人・知人に対する理解度について考えてみる。 事後：改めて友人・知人の良い点・優れている点について理解する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
11～14	(4)自分と相手の関係を知る： ①反射の原則、教官の原則について学修する。 ②バーバル・ノンバーバルにおける伝達の方法について学修する。 ③コミュニケーションを豊かにする方法や手段について学修する。					事前：友人・知人との関係について改めて考えてみる。 事後：友人・知人とのさらなるより良い関係の構築について考えてみる。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
15	(5)ホスピタリティ・マネジメントに向けて： ①ホスピタリティの本質と構造についての復習 ②自身のホスピタリティ・マインド起動の確認					事前：授業全体の復習 事後：サービス産業の特徴についての体系的まとめ		講義 70分 小テスト 20分	
教本： なし					参考文献： 講義において随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、単に学修するだけでなく、自身を改めて見直しより良き対人関係を生み出すための実践でもある。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「ホスピタリティとは何なのか」「ホスピタリティ・マインドを持つためにはどうしたら良いのか」「ホスピタリティと社会」といった大きく3つの視点からホスピタリティのあるべき姿を考察します。									
授業目標： (1) ホスピタリティを理解する。 (2) ホスピタリティ・マインドを持つ人間として成長する。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	ホスピタリティ関連諸概念の整理					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	ホスピタリティの現実					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	ホスピタリティの歴史					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	ホスピタリティのサービス					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	サービス概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	サービスの特性					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	サービス・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	サービス・デリバリー・システム					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	関係性概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	信頼概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	トライアド・モデル					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	現場レベルのホスピタリティ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	組織レベルのホスピタリティ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 徳江順一郎『ホスピタリティ・マネジメント』同文館出版 第3版					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60%）、レポートおよび小テスト（20%）、平常点（20%）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： 単に学修するだけではなく、自身をあらためて見直し、より良き対人関係を構築できるよう実践していきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホスピタリティ論 A (Hospitality Management A)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ホスピタリティとは何かを理解することにより、理論的な手法により自身を見直し対人関係をよりよくするための実践的な講義である。									
授業目標： ①ホスピタリティのあり方を理解する ②自身を今一度理解する ③人間関係のあり方を理解する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1・2	(1)ホスピタリティの体系： ①ホスピタリティ、サービス、おもてなしなど関連用語の関係性について理解する。 ②ホスピタリティの語源等からホスピタリティの意味を学修する。					事前：ホスピタリティに関する資料収集 事後：自身でのホスピタリティの体系化		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
3～6	(2)自分を知る： ①自身のタイプについての自己診断を行う。 ②自分の資質を理解することについて学修する。 ③自身の社会における役割（常識・マナー）について学修する。 ④慈悲や喜怒哀楽について学修する。 ⑤自己開示・自己発見など自分を理解する方法について学修する。 ⑥自分の魅力を引き出す方法について学修する。 ⑦自分のホスピタリティマインドを鍛える方法について学修する。					事前：自身の性格と向き合う 事後：自身の性格の長所・短所について理解し自身のホスピタリティマインドのあり方について熟慮する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
7～10	(3)相手を理解する： ①相手の特性・個性について学修する。 ②相手を受け止める自分について学修する。 ③相手の多様性への対応について学修する（ユニバーサルデザイン）。					事前：友人・知人に対する理解度について考えてみる。 事後：改めて友人・知人の良い点・優れている点について理解する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
11～14	(4)自分と相手の関係を知る： ①反射の原則、教官の原則について学修する。 ②バーバル・ノンバーバルにおける伝達の方法について学修する。 ③コミュニケーションを豊かにする方法や手段について学修する。					事前：友人・知人との関係について改めて考えてみる。 事後：友人・知人とのさらなるより良い関係の構築について考えてみる。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
15	(5)ホスピタリティ・マネジメントに向けて： ①ホスピタリティの本質と構造についての復習 ②自身のホスピタリティ・マインド起動の確認					事前：授業全体の復習 事後：サービス産業の特徴についての体系的まとめ		講義 70分 小テスト 20分	
教本：なし 参考文献：講義において随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、単に学修するだけでなく、自身を改めて見直しより良き対人関係を生み出すための実践でもある。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論A（Hospitality Management A）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「ホスピタリティとは何なのか」「ホスピタリティ・マインドを持つためにはどうしたら良いのか」「ホスピタリティと社会」といった大きく3つの視点からホスピタリティのあるべき姿を考察します。									
授業目標： (1) ホスピタリティを理解する。 (2) ホスピタリティ・マインドを持つ人間として成長する。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	ホスピタリティ関連諸概念の整理					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	ホスピタリティの現実					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	ホスピタリティの歴史					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	ホスピタリティのサービス					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	サービス概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	サービスの特性					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	サービス・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	サービス・デリバリー・システム					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	関係性概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	信頼概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	トライアド・モデル					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	現場レベルのホスピタリティ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	組織レベルのホスピタリティ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 徳江順一郎『ホスピタリティ・マネジメント』同文館出版 第3版					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60%）、レポートおよび小テスト（20%）、平常点（20%）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： 単に学修するだけではなく、自身をあらためて見直し、より良き対人関係を構築できるよう実践していきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論B（Hospitality Management B）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	ホスピタリティ論A							
	そ の 他	なし							
授業概要： ホスピタリティの基礎理解を踏まえ、社会・組織・企業等における横断的なホスピタリティ向上のための視点・施策を中心としたホスピタリティの実践論について学修する。									
授業目標： ①サービス産業における経営特性を理解する ②各種企業・組織形態別ホスピタリティの実践を理解する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1～3	ホスピタリティ産業（サービス産業）とホスピタリティの基本的考え方： ①サービス産業におけるサービスとホスピタリティの違い ②ホスピタリティ産業の特性					事前：ホスピタリティとはについて復習しておく。 事後：産業におけるホスピタリティとサービスの違いについて体系的にまとめる。		（各講義） 講義 70分 小テスト 20分	
4～6	各種産業におけるクレドの内容と意味： ①リッツカールトンにおけるクレドと運営理念 ②他産業におけるクレドの内容と視点					事前：リッツカールトンについて調査する。 事後：クレドの意義についてまとめる。		（各講義） 講義 70分 小テスト 20分	
7～9	顧客満足（CS）と従業員満（ES）： ①顧客満足度の意義及び満足度向上策 ②従業員満足度の意義と効果 ③外国人来訪者における満足度 ④満足度調査の手法と実施					事前：満足度とは何かを調査する。 事後：CSとESとの関係について体系的にまとめる。各種企業の事例を収集する。		（各講義） 講義 70分 小テスト 20分	
10・11	組織形態とホスピタリティ： ①組織形態の特徴 ②ネットワーク組織の特徴 ③ホスピタリティとネットワークキング ④企業事例（スターバックス等）					事前：ネットワークの意味を調査する。 事後：ネットワーク組織の利点についてまとめる。		（各講義） 講義 70分 小テスト 20分	
12・13	顧客対応とホスピタリティ： ①マニュアルとホスピタリティ ②アイデアとホスピタリティ ③ガイド（ボランティアガイド）の実践					事前：マニュアルとは何かを調査する。 事後：マニュアルとアイデアの違いについてまとめる。		（各講義） 講義 70分 小テスト 20分	
14・15	企業に必要なホスピタリティ・マインドの体得： ①ホスピタリティ体得の段階 ②ホスピタリティ・マインド育成の心構え					事前：ホスピタリティ論の全復習を行う。 事後：自身の変化の確認を行う。		（各講義） 講義 70分 小テスト 20分	
教本： なし					参考文献： 講義において随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 原則ホスピタリティAを取得してから受講するのが望ましい。各企業種毎については他授業にて学修できるのでここでは、各企業等の共通するホスピタリティ関連について横断的に学習する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ホテル経営論Ⅰ（Hotel Management TheoryⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 観光産業の概況（観光産業の動向と宿泊産業）、ホテル産業の概要（ホテルの定義・ホテル産業の分類・ホテルの組織）、ホテル経営者として必要な基本知識（国際的な習慣・ホスピタリティ・関連知識・ホテル英語の基本）、宿泊部門（宿泊商品の特性・組織と業務役割）、宿泊部門の実務（宿泊約款と利用規則・施設設備・宿泊商品・主な担当者の業務）について学習する。									
授業目標： 1. ホテルについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法及基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	世界の観光動向、世界の宿泊産業（欧州・米国・アジア）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P 2～7) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	日本の観光動向、日本の宿泊産業について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P 8～15) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	ホテル産業の概要（ホテルの定義・ホテル産業の分類）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P16～20) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	ホテル産業の概要（ホテルの組織）、ホテル経営の推進力について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P21～22) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	ホテル経営者として必要な基本知識（国際的な慣習・ホスピタリティ）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P23～28) 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	ホテル経営者として必要な基本知識（関連団体・関連法規他）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P28～31) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	ホテル英語の基本、ホテルの経営形態について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P32～53) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	宿泊商品の特性（制約要件・市場要件・収益性）、組織と業務役割について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P58～61) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	宿泊部門の基本知識（宿泊約款と利用規則）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P62～65) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	宿泊部門の基本知識（施設設備・宿泊商品）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P66～73) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	宿泊部門の主な担当者の業務（ユニフォーム・サービス係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P73～76) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
13	宿泊部門の主な担当者の業務（フロント・オフィス係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P76～79) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
14	宿泊部門の主な担当者の業務（ルームリザーベーション係・アシスタントマネージャー係・コンシェルジュ係・テレフォンオペレーター係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P79～82) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
15	宿泊部門の主な担当者の業務（ハウスキーピング係）半期授業の総括。授業のポイントについて説明し理解度を確認する。					事前：授業の予習(教科書 P82～84) 事後：ポイントを整理する		講義 60分、質疑応答 30分	
教本： 「ホテルビジネス」（日本ホテル教育センター ￥5,000）					参考文献： 必要な資料をその都度配布				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ホテル経営論Ⅱ（Hotel Management TheoryⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ホテル経営論Ⅰに引き続き、ホテル経営の観点から料飲部門、宴会部門、調理部門、マーケティング部門、総務・人事部門、施設管理部門、仕入れ・購買部門、経理・会計部門について学習する。									
授業目標： 1. ホテルについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。(授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施)									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法及基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	料飲部門の概要 料飲商品の特性（制約要件、立地・施設要件、嗜好・経費面）、組織と業務役割（組織、役職者・担当者呼称、レストラン課・飲料課・料飲事務の業務）、基本知識（業種・業態、施設・設備・備品、食材・飲材）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P88～105） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	基本知識（メニュー、サービス方法、食品衛生、苦情処理と緊急対応）、主な担当者の業務（マネージャー、グリーター・グリートレス、ウェイター・ウェイトレス、飲料担当者）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P105～121） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	宴会部門の概要 宴会商品の特性、（制約要件、施設・設備、経営面）、組織と業務役割（組織、役職者・担当者呼称、宴会予約課、宴会サービス課、その他）、基本知識（宴会の種類、施設・設備・備品、サービス方法）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P126～138） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	基本知識（冠婚葬祭、プロトコル、宴会約款）、主な担当者の業務（ブック・コントローラー、ブライダル・サロン、宴会レセプション係、宴会サービス係、宴会スチュワード係、宴会クローク係、バンケット・ホステス、宴会バーテンダー、介添え係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P139～151） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	調理部門の概要 調理部門の特性（制約要件、メニュー開発、経費面）、組織と業務役割（組織、役職者・担当者呼称、メインキッチン課、宴会調理課、レストラン調理課、製菓・製パン課）、基本知識（調理の種類と特徴、施設・設備・備品、調理の方法）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P156～169） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	基本知識（西洋料理、顧客志向、食品衛生）、主な担当者の業務（ブッチャー係、ソース係、ガルドマンジェ係、ペストリー係、ペーカリー係、ストープ前、パントリー係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P169～182） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	マーケティング部門の概要 組織と業務役割（組織、営業企画課、セールス課）、売り上げ予算の作成業務（客室売り上げ、宴会売り上げ）、基本知識（マーケティング戦略、商品化計画）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P186～205） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	基本知識（顧客管理、各種マネジメント）、主な担当者の業務（宴会セールス係、宿泊セールス係、婚礼セールス係、広報・宣伝係、企画係、顧客管理係）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P206～214） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	総務・人事部門の概要 組織と業務役割（組織、総務業務、人事業務）、基本知識（総務課）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P218～224） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	基本知識（人事課）、基本知識（総務部門、人事部門）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P224～235） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	施設管理部門の概要 組織と業務役割（組織、使命と責務、業務）基本知識（主要設備と付帯設備、省エネとエネルギー管理、ISO 活動への取り組みと運用、IT 設備、廃棄物処理管理、具体的省エネ）、関係法令（ビル衛生管理法、省エネ法、電気事業法、建築基準法、消防法、大気汚染防止法、その他）、関係資格について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P240～256） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	

13	仕入れ・購買部門の概要 組織と業務役割（組織、業務）、基本知識（食品衛生、仕入れ）、主な担当者の業務（仕入れ、在庫管理、情報収集と管理、商品管理）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 （教科書 P260～279） 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分
14	経理・会計部門の概要 組織と業務役割（組織、経理課、収納課、クレジット課）、基本知識（知っておきたい常識、業務の特徴、収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 （教科書 P284～300） 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分
15	主な担当者の業務（宿泊部門、料飲部門、宴会部門、その他部門の会計実務）半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 （教科書 P88～300） 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本：「ホテルビジネス」（日本教育センター） ￥5,000 参考文献：必要な資料をその都度配布			
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト（20%）、定期試験のレポート（65%）、等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 指定の教科書で事前・事後学習してください。理解できない点は授業で質問してください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホテルサービス実務（Practice for Hotel Service）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ホテルの基本的性格、ホテル業の分類、ホテルの経営、組織、ホスピタリティとサービス、顧客満足、従業員満足、品質管理、ホテルの評価、ホテルスタッフのサービストレーニングと評価、ホテルスタッフの基本マナー、接客サービス（宿泊部門、料飲部門、食堂部門、宴会部門、調理部門）、ホテルの付帯サービスについて学習する。									
授業目標： 1. ホテルサービス全般を学び、ホテル運営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。(授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施)									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法と基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。 ホテルの基本的性格。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	ホテル業の分類 立地による分類（都市、郊外、リゾート）、形態による分類（経営形態、資本形態）、ホテルの経営（基本理念、営業方針、サービスマネジメント）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P1～15） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	ホテルの組織（日本のホテル、外国経営のホテル、日本と外国経営の違い、ホテルの構造）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P15～31） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	ホスピタリティとサービス（ホスピタリティの原点、サービスの特性、サービスの分類、良いサービス）、顧客満足（特性とサービス）、従業員満足（従業員満足とサービス、自己啓発、品質管理（品質管理と向上のステップ）、ホテルの評価（お客様の声、評価内容）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P33～48） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	ホテルスタッフのサービストレーニング サービスマニュアルの活用（必要性、作成、OJTでの活用）、日本のサービストレーニングについて質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P49～63） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	外国経営ホテルのトレーニング、コンピューターシステムの活用について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P63～77） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	仕事の評価（日本のホテルの評価制度、外国のホテルの評価制度）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P77～94） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	ホテルスタッフの基本マナー（身だしなみ、ユニフォームの自己管理、言葉づかい、表情と動作、電話の応対、職場の規律）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P85～94） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	接客サービス 宿泊部門（特色、組織と業務の流れ、フロントオフィスの仕事：宿泊予約、レセプション、インフォメーション、キャッシャー、アシスタントマネージャー・ナイトマネージャー）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P95～111） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	フロントサービスの仕事（ドアマン・ドアガール、ベルマン・ベルガール、クローク、ゲストリレーションズ・コンシェルジュ）、ハウスキーピングの仕事（客室管理事務所、ハウスキーパー、チェッカー）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P111～128） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	料飲部門（特色と組織）、食堂部門（特色、組織と業務の内容） レストラン・バーの種類 レストラン・バーの仕事（サービスの心得、仕事の流れ、サービスの種類、コスト意識）、フレンチレストランのサービス（従業員の役割、テーブルサービスの種類、仕事の手順）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P128～147） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	レストランの業務知識（メニュー、料理の分類、酒類の分類、テーブルクロスとナプキン、食器と備品の種類、テーブルセッティング）、バーの業務知識（組織、従業員の役割、バーのサービス、備品、仕事の手順）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P147～167） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	

13	宴会部門（特色と業務の流れ）、宴会予約の仕事（心得、仕事の流れ、業務、主な宴会の種類、婚礼の受注、キャンセルの取り扱い）、宴会サービスの仕事（心得、業務知識、サービスの要領、婚礼サービス、その他の宴会サービス）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 （教科書 P167～188） 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分
14	調理部門（特色と業務の流れ）、調理の仕事（料飲調理、宴会調理、仕込み調理、製菓調理、調理事務所、スチュワード）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。	事前：授業の予習 （教科書 P188～192） 事後：次回授業の予習	講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分
15	ホテルの付帯サービス 施設サービス（客室フロアー、その他）、人的サービス（客室内、客室外）半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 （教科書 P193～196） 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本：「わかりやすいホテルのサービス実務」（柴田書店 ￥5,000） 参考文献：必要な資料をその都度配布			
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代社会におけるボランティア活動の現状と価値を、当事者、活動者、社会、地域の立場から理解する。多種多様なボランティア活動の特性を学び、これからの社会の一翼を担う社会人として、ボランティア活動の基礎を学ぶ。課外の自由時間でボランティア活動（15時間以上）を体験して発表することで、理論と実践のフィードバックを行う。									
授業目標： ボランティア活動は、様々な分野に広がりがある。ボランティア活動の歴史、背景を知り、多岐にわたる活動の概要を知る。そして実際にボランティア活動を体験して発表することで、ボランティア活動の基礎を具体的に理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明					事前：シラバスの読み込み、確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(60分)、発表(30分)	
2	ボランティア活動とは何か。その目指すものとは。ボランタリズムについて説明し、理念と役割について					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
3	ボランティア活動の理念と役割。日本における活動団体の広がり。ボランティア計画書配布					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
4	様々なボランティア活動①。地域でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：体験活動の事前検討 事後：体験活動の用意		講義(40分)、演習(50分)	
5	ボランティアの歴史。ボランティア体験活動の検討と開始準備。					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
6	ボランティア活動の推進。ボランティア活動の組織と振興策。NPO、NGO による様々な活動					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
7	ボランティアの学習と実践。ボランティア活動の意義と課題。実践の課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
8	様々なボランティア活動②。高齢者施設等でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	様々なボランティア活動③。障がい者施設等でのボランティア活動。その事例の紹介と評価と課題					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
10	様々なボランティア活動④。地方自治体や博物館等の社会教育分野でのボランティア活動。事例紹介					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
11	様々なボランティア活動⑤。国際貢献分野、災害被災地でのボランティア活動。事例の紹介					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	ボランティア活動報告書提出。発表の準備					事前：教本の該当部分を読む 事後：配布資料とノートの内容確認		講義(70分)、小テスト(20分)	
13	体験活動成果発表（グループ発表等）①。体験して考えたこと、感じたことを纏める					事前：発表の準備 事後：配布資料の内容確認		演習(90分)	
14	体験活動成果発表（グループ発表等）②。体験して考えたこと、感じたことを纏める					事前：発表の準備 事後：配布資料の内容確認		演習(90分)	
15	まとめ。授業全体、体験等感想を纏め、発表する					事前：報告書作成等提出準備 事後：配布資料の内容確認		講義(40分)、 デスカッション(50分)	
教本： 岡本栄一他『ボランティアのすすめ』 ミネルヴァ書房 ￥2,400+税 他に必要に応じ資料プリントを配布。					参考文献： その都度提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 発表など授業参加状況等（15%）、ボランティア実施等（40%）、小テスト・レポート等（15%）、定期試験（30%）等で総合評価する。3 回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学生へのアドバイス： 積極的な授業参加を期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「ボランティア論」は現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とし、学生たちの自主性と社会参加意思を高める授業である。大きな災害が起きたときは、国や自治体などの公共機関のほかに、ボランティア団体による活動が、被災地の救援や救護、復旧に大きな役割をはたしている。本講義は改めて防災への関心を喚起し、意識を高める必要があるという考えのもと展開している。また、救急救命講習を受ける学生が増えてきている現状も鑑み、救援活動の実践的な学習を通じて、ボランティア活動の内容や知識が身に付くよう授業を行う。単なる座学の学習に終わらず、厚木市社会福祉協議会で登録している大学の任意団体「松蔭大学地域ボランティア」の準隊員として、課外の自由時間で実際にボランティア活動（15時間以上）を体験することを通じてボランティアの世界を味わい、自分なりの「ボランティア論」を作り上げ、21世紀を生きる我々の生き方をともに考えることを目指す。									
授業目標： 松蔭大学建学精神「知行合一」の理解と地域貢献による自分なりの考え方を持ちながら、具体的な達成目標としてはさしあたり次のようなことを考えているので、各自、自分なりの学習目標を設定して受講してください。 ①ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返り、自分のボランティア・イメージを検証する ②ボランティアの基本的な理念を理解する ③ボランティアのいくつかの活動分野について知る ④ボランティアを受ける側の考えとニーズを理解する ⑤ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する ⑥災害と防災に関する基礎知識を修得し災害対応能力の基礎を養う ⑦21世紀におけるボランティアの社会的意義について考える ⑧ボランティアに関する自分なりの考え方を確立する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（開講の趣旨、学習の進め方、約束事）ボランティアの理念を講ずる。					事前：なし 事後：配布資料を次回までざっと読む		講義90分	
2	ボランティアの意義を考える。ボランティアの四原則について理解する。学生とボランティア【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
3	配布資料「ボランティアの楽しさ」を読み考える。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
4	厚木市市民活動の紹介と活動計画を検討し、活動を始める準備【学習目標作成・提出】。グループ編成					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
5	配布資料「ボランティアの関わり方」を読み考える。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
6	ワークショップ・クロスロード【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
7	厚木市の現状と防災対策【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】（ゲストスピーカーより）					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
8	ワークショップ：避難所運営シミュレーション・HUG					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
9	被災地での活動（福島県浪江町、南相馬市、二本松市）報告					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
10	イギリスにおけるギャップイヤー（Gap Year）の成立と発展。日英ギャップイヤー					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
11	厚木市消防本部と連携、「救急救命講習」を学習（e-learning）					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
12	厚木市消防本部と連携、「救急救命講習」を実技実習					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
13	ボランティア活動は主体的・自律的で相互実現を図る活動・花田えくぼ氏の詩。最終レポート指示					事前：配布資料の事前読む 事後：発表準備、最終レポート準備		講義50分、 ディスカッション40分	
14	ボランティアについて考えこと、体験活動成果発表その1（グループごと）。感じたことをノートにまとめ、復習シート配布					事前：発表準備 事後：発表準備		講義20分、 発表準備70分	
15	ボランティア体験活動成果発表その2（グループごと）。「自己評価シート」を提出。ボランティア体験活動報告書提出					事前：発表準備 事後：最終レポート準備		講義20分、発表70分	

教本： 資料配布	参考文献： ・ケン・アレン、『ボランティアが変える世界』アルク ・金子郁容、『ボランティアもうひとつの情報社会』岩波新書
成績評価の方法、評価基準： 1. 授業には極力すべて出席すること 2. ボランティア体験活動（課外活動）が要求しないが、15時間以上行った場合には評価の上加点する。 3. 以下の4項目を参考にしながら、各自の自己評価を尊重して評価する。 ただし、ボランティア体験活動についての評価ではなく、ボランティアについて学んだ内容に関して評価する。 平常点（実施するミニレポートの内容）： 30% ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容） （ボーナスポイント） 最終レポート（1,200字以上の分量と内容） 50% 提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等） 20%	
学生へのアドバイス： 授業についての質疑、活動の交流・討論など、ボランティア学習にふさわしい受講生の積極的な授業参加を期待する。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	